年　　報

２０１８年度

社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団

厚木看護専門学校

はじめに

本校は、1968年4月に社会福祉法人老人福祉事業団 厚木准看護婦学校として開校し、2018年4月に創立50周年を迎えました。「人間らしく共に生きるために」という社会福祉の理念に基づき、ヒューマニズムの精神を建学の理念とし、身体的・精神的・社会的にいろいろな角度から健康生活の援助ができる自律した看護師の育成をめざしています。1972年に2年課程（現看護第二学科・昼間定時制）、1982年には3年課程の看護第一学科（全日制）を新設しました。2003年に准看護学科は廃止となりましたが、校舎が新築移転した2010年には入学定員を看護第一学科80人、看護第二学科40人に増員し現在に至っております。

2018年度は、4月に看護第一学科37回生84名、看護第二学科47回生30名の新入生を迎えました。看護第二学科の募集停止により、両科の全学年が揃う最後の入学式となりました。2019年度生の入学試験は看護第一学科のみ募集し実施しました。

3月の卒業式では、看護第一学科74名、看護第二学科22名が晴れやかに巣立っていきました。卒後の就職先は、神奈川県内に100%、県央地区に67%と本校の使命に基づきその役割を果たしております。卒業生は現在まで4033人となり、さまざまな看護の現場で活躍していることは心強い限りです。県央地区唯一の看護専門学校として、地域包括ケア社会の中で対応できる看護人材を養成し、地域に貢献できるよう今後も努力を重ねていきたいと考えております。

学校評価の一環である自己点検・自己評価活動については、2005年から取り組みを開始しその体制も年々充実してきました。学校関係者評価会議「明日の厚木看護専門学校を考える会」においては、学生代表が委員として初めて参加し、よりよい学校づくりに向けて意見交換を行いました。教育の質向上・質保証をより高め、魅力ある学校づくりに向けて今後も積極的に取り組んでまいります。

創立50周年の記念誌発行、記念式典・祝賀会開催にあたり、同窓会をはじめ多くの方々からお祝いの言葉をいただきました。本校への熱い思いや期待と共に、御支援、ご協力いただいた関係機関、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。創立時から積み重ねてきた50年という歴史の重みをあらためて実感した1年でした。

本校の2018年度の教育活動について、ここに年報としてまとめました。今までは冊子として刊行しておりましたが、2018年度年報よりホームページに掲載することといたしました。元号も5月1日より令和に改元され、新たな時代に向けて学校の見える化をはかり、より開かれた看護学校をめざしてまいります。

今後とも本校の教育活動、運営にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019（令和元）年8月

社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団
厚木看護専門学校
学校長　武藤　和恵

目　　次

１．理念 …… 1

２．沿革 …… 1

３．年度重点目標 …… 2

４．学校組織 …… 2

（１）組織図 …… 2

（２）教職員の構成 …… 2

（３）各種会議・委員会 …… 3

５．教育活動・評価

（１）教育目的・目標 …… 7

（２）授業科目及び履修時間数 …… 8

（３）講師・専任教員の状況 …… 11

（４）実習施設状況 …… 11

（５）授業評価活動 …… 12

（６）教員によるカリキュラム評価 …… 13

（７）講師会議 …… 35

（８）研修の受け入れ状況 …… 35

（９）夏期臨地実習指導者研修会 …… 35

６．教員の研修・研究活動等

（１）学会・紙上発表 …… 36

（２）座長・講師等 …… 37

（３）学外研修参加 …… 38

（４）学会・団体の入会状況 …… 43

（５）受賞・認定等取得状況 …… 44

（６）職員研修 …… 45

７．学生に関する状況

（１）学生の在籍状況 …… 46

（２）入学試験の状況 …… 46

（３）入学生の出身地 …… 47

（４）国家試験合格状況 …… 47

（５）就職・進路状況 …… 47

（６）奨学金の貸付状況 …… 48

（７）スクールカウンセリング利用状況 …… 48

8．学生確保活動

（1）推薦指定校の推移 …… 49

（2）学校見学会（オープンキャンパス）実施状況 …… 49

（3）一日看護体験 …… 50

（4）進学説明会出席状況 …… 51

9．年間の行事 …… 52

10．年間行事等の実施状況

（1）文化祭（たまご祭） …… 53

（2）看護を考える日・特別講演 …… 53

（3）看護学生のつどい …… 53

（4）実習病院就職説明会 …… 54

（5）看護第一学科指定校推薦に関する説明会 …… 54

（6）厚看卒新人看護師のつどい …… 54

（7）保護者説明会 …… 55

（8）地域高齢者との交流 …… 55

（9）手作りおもちゃの遊びの会 …… 56

（10）推薦入学生準備説明会 …… 56

（11）学生のボランティア活動等 …… 57

11．図書活動状況

（1）蔵書冊数 …… 59

（2）新規受入状況 …… 59

（3）貸出状況（利用実績） …… 59

1．理念

本校は、「人間らしく共に生きるために」という社会福祉の理念に基づき、ヒューマニズムの精神を建学の理念とし、身体的・精神的・社会的に様々な角度から健康生活への援助ができる自律した看護師の育成を目指している。

2．沿革

本校は、昭和43年4月に社会福祉法人神奈川県老人福祉事業団厚木准看護婦学校として開校し、昭和47年4月に看護師への道を拓くため看護婦学科・2年課程（現在の看護第二学科）を新設した。また昭和55年11月に各種学校から専修学校へと移行し、昭和57年4月には「医療の高度化と分化に対応する看護の充実」を図るため看護第一学科・3年課程を新設した。

昭和43年　4月　旧厚木保健所を改修し、厚木准看護婦学校として開校
昭和44年　7月　各種学校として認可（県指令学宗第 194号）
昭和46年　3月　校舎増設のため旧厚木市役所へ仮移転
昭和46年　5月　校舎新築工事着工
昭和46年 12月　看護婦養成所として指定（厚生大臣）
昭和47年　4月　看護学科(2年課程・昼間定時制)を新設、厚木看護学院と改称
昭和47年　7月　校舎完成（厚木市寿町2-2-4）
昭和48年　4月　社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団立となる
昭和55年 11月　専修学校の「専門課程、高等課程」の学校課程認可
昭和56年　4月　厚木看護専門学校と改称
昭和57年　4月　看護第一学科新設（3年課程・全日制）
平成 7年　3月　医療専門課程の看護第一学科・看護第二学科卒業生に対し、「専門士（医療専門課程)」の称号が付与される
平成 9年 11月　創立30周年記念式典開催
平成10年　3月　在宅看護実習棟の設置
平成15年　3月　准看護学科（医療高等課程）廃止
平成20年 10月　現校舎新築工事着工
平成21年 12月　校舎移転・入学定員等の変更承認（厚生労働大臣）
平成22年　2月　現校舎完成
平成22年　4月　現校舎へ移転
入学定員の変更
（看護第一学科入学定員を40人から80人に変更）
（看護第二学科入学定員を30人から40人に変更）
平成24年　4月　総定員（看護第一学科240人、看護第二学科120人の計360人）による稼動開始
平成25年　4月　看護第二学科の開校形態変更（半日週5日→全日週3日登校へ）
平成29年　2月　文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定を受ける
平成30年　4月　創立50周年を迎える
平成31年　3月　創立50周年記念式典開催

各学科指定年月日

区　分	看護第一学科 （3年課程・全日制）	看護第二学科 （2年課程・昼間定時制）
学校養成所 指定年月日	昭和56年12月25日 厚生大臣指定	昭和46年12月27日 厚生大臣指定

学生定員

学科名	学級数	入学定員
看護第一学科	2	80人
看護第二学科	1	40人

総定数
240人
120人

３．2018 年度　重点目標

（１）　自律した実践者の育成を目指した教育サービスの提供

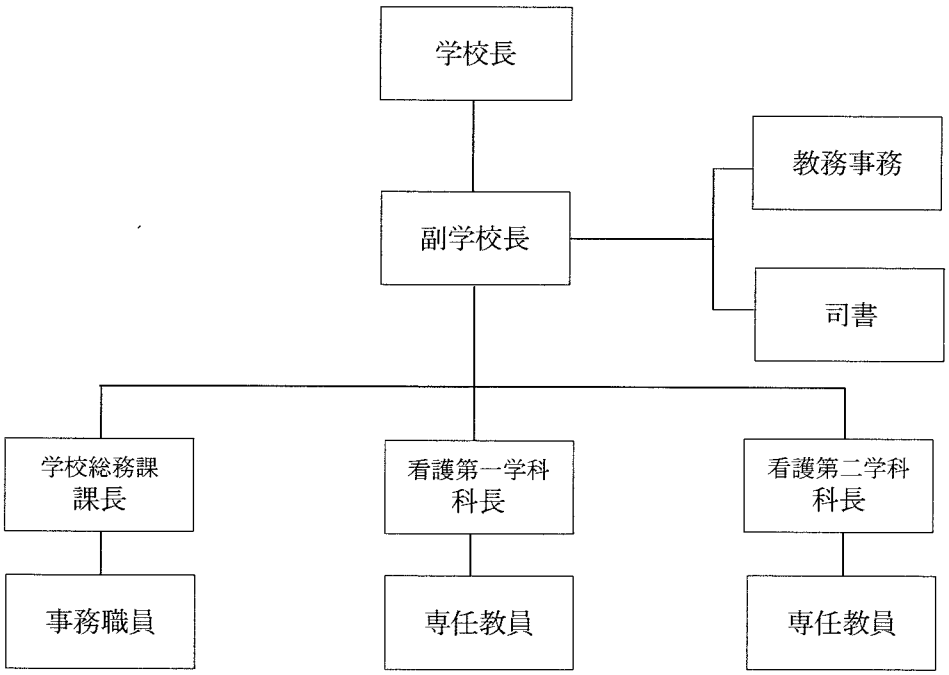
（２）　質保証・向上に向けた学校運営の体制整備

（３）　地域社会に向けた情報発信の強化

（４）　県央地区・県内の看護師養成への貢献

４．学校組織

（１）組織図



（２）教職員の構成（２０１８年４月１日現在）

（単位：人）

学校長		１
副学校長		１
専任教員	看護第一学科	２０
	看護第二学科	８
事務職員		４
教務事務		１（非常勤）
司書		１（非常勤）
計		３６（正規３４、非常勤２）

（3）各種会議・委員会等

1）外部委員を招聘した会議

名称	趣旨・目的	所掌事項	委員	開催状況
学校運営協議会	厚木看護専門学校の運営に関する事項について協議する	①学校運営に関すること ②学校教育に関すること ③その他会長が必要と認める事項に関すること	◎厚木医師会が推薦する者 ・厚木病院協会が推薦する者 ・神奈川県看護協会県央支部が推薦する者 ・実習施設看護部門代表 ・厚木市市民健康部長 ・学識経験者 ・学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・看護第一学科長：大河原亮一 ・看護第二学科長：島田真由美	2018年 11月13日
教育課程編成委員会	厚木看護専門学校の教育課程に関する事項について協議する	①教育課程に関すること ②その他必要と認める事項に関すること	・厚木医師会が推薦する者 ・厚木病院協会が推薦する者 ・神奈川県看護協会県央支部が推薦する者 ・実習施設看護部門代表 ・厚木市市民健康部長 ・学識経験者 ◎学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・看護第一学科長：大河原亮一 ・看護第二学科長：島田真由美	2018年 7月3日 11月13日
倫理委員会	厚木看護専門学校に所属する職員が行なう看護教育が倫理的配慮のもとに行なわれ、かつ学生等の人権及び生命の擁護に寄与することを目的とする	学校において行われる看護教育等に関し、倫理上の配慮が求められる次の事項について審議する。 ①看護教育に関すること ②学生に関すること ③学校運営に関すること ④職員の研究等に関すること ⑤その他倫理委員会議長が必要と認めた事項に関すること	◎学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・看護第一学科長：大河原亮一 ・看護第二学科長：島田真由美 ・事業団事務局長 ・外部委員	2018年 6月13日 11月8日

◎は議長を示す

名称	趣旨・目的	所掌事項	委員	開催状況
「明日の厚木看護専門学校を考える会」学校関係者評価委員会	厚木看護専門学校が実施する自己点検・自己評価の客観性及び透明性を高める	①学校運営に関すること ②学校教育に関すること ③その他必要と認める事項に関すること	・事業団事務局長 ・神奈川リハビリテーション病院副病院長兼看護部長 ◎学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・看護第一学科長：大河原亮一 ・看護第二学科長：島田真由美 ・自己点検・自己評価会議リーダー：櫛谷由佳 ・外部委員（学生委員含む）	2018年 9月13日

◎は議長を示す

2）学校内会議

名称	趣旨・目的	所掌事項	委員	開催等
経営会議	厚木看護専門学校の次に掲げる所掌事項の審議を行う	①学校運営上の課題に関すること ②学校の経営状況に関すること ③その他学校の経営上の諸課題に関すること	◎学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・看護第一学科長：大河原亮一 ・看護第二学科長：島田真由美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・一科総括主査：田原裕子 ・二科総括主査：持木香代 ・総務総括主査：藤川充	2018年 4月9日 ～ 2019年 3月12日 計11回
経営計画推進会議	厚木看護専門学校の効率的な運営及び経営の推進を図る	①経営計画の着実な推進に関すること ②その他必要な事項に関すること	◎学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・看護第一学科長：大河原亮一 ・看護第二学科長：島田真由美 ・自己点検・自己評価担当者会議リーダー：櫛谷　由佳 ・学生確保対策会議リーダー：安藤直子 ・学校安全会議リーダー：前田幹香	2018年 6月1日 ～ 2019年 2月12日 計4回
職員会議	厚木看護専門学校の学校運営や看護教育が円滑に行われることを目的とする	①学校運営における具体的な課題事項に関すること ②その他学校の諸課題の具体的な事項に関すること	※進行・書記は指定した職員 学校長以下全職員参加	2018年 4月12日 ～ 2019年 3月7日 計11回

◎は議長を示す

名称	趣旨・目的	所掌事項	委員	開催等
経営計画推進会議下部会議	学校で行う教育活動について、常に質の高い教育水準の維持・向上と創意工夫のある教育の追求を図る	①自己点検・自己評価担当者会議	◎主査：櫛谷由佳 ・看護第二学科長：島田真由美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・一科総括主査：田原裕子 ・総務総括主査：藤川充 ・主査：長塚彩加 ・主査：渡邉小枝子 ・主査：豊原敦子 ○主査：市原真由美 ・主査：小泉由香里 ・技師：西川裕美 ・技師：中野志津江 ・技師：赤堀貴子 ・技師：小島拓也	2018年 4月4日 ～ 2019年 2月26日 計11回
	厚木看護専門学校における学生確保対策活動において、質の高い学生の確保を目的とする	②学生確保会議（ホームページ作成含む）	◎主査：安藤直子 ・看護第一学科長：大河原亮一 ・主査：三浦夏枝 ・主査：櫛谷由佳 ・主査：藤原則子 ○主任技師：渡辺彩 ・主任技師：渡邉雅英 ・技師：今田美和子 ・技師：松嶋葉子 ・主事：山下尚也	2018年 4月4日 ～ 2019年 2月26日 計11回
	厚木看護専門学校の教育理念・教育目標に基づき、学生が安全な学校生活を送れるよう支援することを目的とする	③学校安全会議	◎主査：前田幹香 ・総務課長：栗本慶一 ・総括主査：持木香代 ・主査：杉崎真紀 ○主査：池田紀子 ・主査：三浦英子 ・主任技師：菊池寛子 ・技師：高井咲恵 ・技師：関真弓	2018年 4月4日 ～ 2019年 2月26日 計11回
看護第一学科会議	看護第一学科の運営や看護教育が円滑に行われることを目的とする	①科内における具体的な課題事項に関すること ②その他諸課題に関すること	・看護第一学科長および科員	2018年 4月4日 ～ 2019年 3月27日 計34回

◎はリーダー・○はサブリーダーを示す

名称	趣旨・目的	所掌事項	委員	開催等
看護第二学科会議	看護第二学科の運営や看護教育が円滑に行われることを目的とする	①科内における具体的な課題事項に関すること ②その他諸課題に関すること	・看護第二学科長および科員	2018年 4月3日 ～ 2019年 3月30日 計40回
入学試験会議	入学試験に関する業務を公正かつ円滑にする	入学試験に関すること	非公表	2018年 4月9日 ～ 2019年 3月6日 計11回
合否判定会議	入学試験後の合否を公正かつ円滑に判定する	入学試験後の合否判定に関すること	非公表	2018年 9月11日 ～ 2019年 3月11日 計11回
認定会議	授業科目の評価及び単位授与に関する細則」第11条、第13条「入学前の既修得単位の認定に関する細則」第４条及び「学則」第28条の規定に基づき審議を行う	①単位認定に関すること ②卒業認定に関すること ③既修得単位認定に関すること	◎学校長：武藤和恵 ・副学校長：五十嵐一美 ・学校総務課長：栗本慶一 ・看護第一学科長：大河原亮一 ・看護第二学科長：島田真由美 ・一科総括主査：田原裕子 ・二科総括主査：持木香代	単位認定 2018年 3月14日 卒業認定 2018年 2月1日

◎は議長を示す

5．教育活動・評価

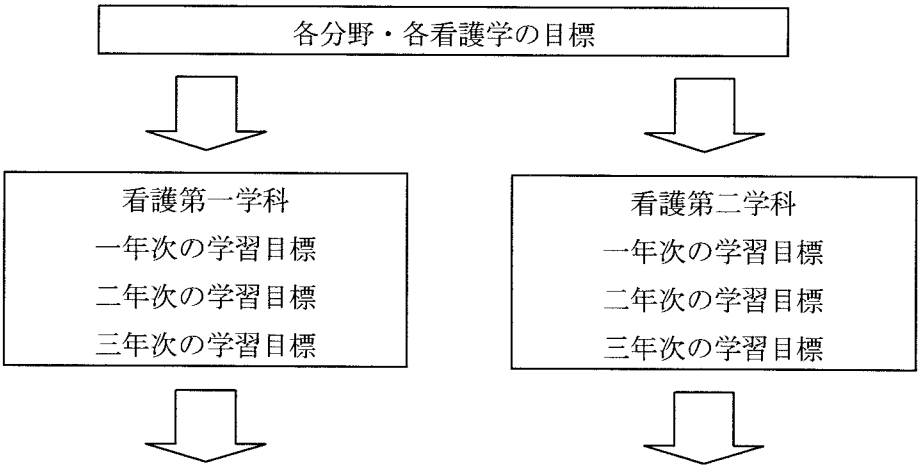
（1）教育目的・目標

教育目的

本校は学校教育法及び保健師助産師看護師法の規定に基づき、看護師として必要な知識及び技術を習得させ、併せて一般教養の向上をはかり有能な人材を育成する

教育目標

1　個人・家族・社会における人間の生活に焦点をあて、看護の視点から現代社会の健康ニーズを理解するために、必要な知識と感性、コミュニケーション能力を培い、自由で心豊かな人間形成を目指す
2　人々の多様な価値観を認識し、人間の生命、個人の尊厳及び権利を尊重できる責任を自覚し、専門職業人として倫理に基づいた看護を実践できる
3　科学的根拠に基づき、健康に関連した諸問題を解決できる看護実践能力を養う
4　最新の知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力を養い、主体的に看護を探求し続けていく姿勢を養う
5　保健・医療・福祉について考えられる基礎を学び、チーム医療を実践するとともに、人々が社会的資源を活用できるよう、それらを調整する為の基礎的能力を養う



卒業時に期待する能力

1　看護の専門的知識・技術を身につける
2　人間の生命、個人の尊厳及び権利を尊重できる
3　看護師の役割を認識し責任ある行動ができる
4　学習を継続する必要性を認識し努力できる
5　一般教養を身につけ高める努力ができる
6　人間関係を発展させる基礎的能力を身につける

段階的な目標を掲げ、点検・評価しながら、一貫性のある質の高い教育をめざしている。

（2）授業科目及び履修時間数

ア　看護第一学科

授業科目			単位数(時間数) 第1学年		第2学年		第3学年		計	
基礎分野	科学的思考の基盤	文章表現法	1	(30)					1	(30)
		体育	1	(30)					1	(30)
		化学	1	(30)					1	(30)
		情報科学	1	(30)					1	(30)
		英語Ⅰ	1	(30)					1	(30)
		英語Ⅱ			1	(30)			1	(30)
		論理学	1	(15)					1	(15)
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	(30)					1	(30)
		ボランティア論	1	(15)					1	(15)
		教育学			1	(30)			1	(30)
		心理学	1	(30)					1	(30)
		哲学	1	(15)					1	(15)
		倫理学	1	(15)					1	(15)
		人間関係論Ⅰ	1	(15)					1	(15)
		人間関係論Ⅱ					1	(30)	1	(30)
	小計		12	(285)	2	(60)	1	(30)	15	(375)
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	2	(60)					2	(60)
		生理学	2	(60)					2	(60)
		生化学	1	(30)					1	(30)
		栄養学			1	(30)			1	(30)
		バイオメカニクス			1	(15)			1	(15)
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	(30)					1	(30)
		疾病と治療Ⅰ			1	(15)			1	(15)
		疾病と治療Ⅱ			1	(15)			1	(15)
		疾病と治療Ⅲ			1	(15)			1	(15)
		疾病と治療Ⅳ			1	(15)			1	(15)
		疾病と治療Ⅴ			1	(15)			1	(15)
		疾病と治療Ⅵ			1	(15)			1	(15)
		微生物学	1	(30)					1	(30)
		薬理学			1	(30)			1	(30)
		リハビリテーション学			1	(30)			1	(30)
	健康支援と社会保障制度	福祉における援助	1	(15)					1	(15)
		公衆衛生学			1	(15)			1	(15)
		関係法規			1	(15)			1	(15)
		社会福祉論			1	(15)			1	(15)
		保健医療福祉論			1	(15)			1	(15)
		障害者福祉論			1	(15)			1	(15)
		医療と倫理					1	(15)	1	(15)
	小計		8	(225)	15	(270)	1	(15)	24	(510)
専門分野Ⅰ	基礎看護学								11	(330)
		基礎看護学Ⅰ	1	(30)					1	(30)
		基礎看護学Ⅱ	1	(30)					1	(30)
		基礎看護学Ⅲ	1	(30)					1	(30)
		基礎看護学Ⅳ	1	(30)					1	(30)
		基礎看護学Ⅴ	1	(30)					1	(30)
		基礎看護学Ⅵ	1	(30)					1	(30)
		基礎看護学Ⅶ	1	(30)					1	(30)
		基礎看護学Ⅷ	1	(30)					1	(30)
		基礎看護学Ⅸ	1	(30)					1	(30)
		基礎看護学Ⅹ			1	(30)			1	(30)
		リハビリテーション看護	1	(30)					1	(30)
	臨地実習								3	(135)
		基礎看護学Ⅰ実習	1	(45)					1	(45)
		基礎看護学Ⅱ実習	2	(90)					2	(90)
	小計		13	(435)	1	(30)	0	(0)	14	(465)

授業科目		単位数(時間数) 第1学年	第2学年	第3学年	計
専門分野Ⅱ	**成人看護学**				**6 (165)**
	成人看護学Ⅰ	1 (15)			1 (15)
	成人看護学Ⅱ		1 (30)		1 (30)
	成人看護学Ⅲ		1 (30)		1 (30)
	成人看護学Ⅳ		1 (30)		1 (30)
	成人看護学Ⅴ		1 (30)		1 (30)
	成人看護学Ⅵ		1 (30)		1 (30)
	老年看護学				**4 (105)**
	老年看護学Ⅰ	1 (30)			1 (30)
	老年看護学Ⅱ		1 (30)		1 (30)
	老年看護学Ⅲ		1 (15)		1 (15)
	老年看護学Ⅳ		1 (30)		1 (30)
	小児看護学				**4 (105)**
	小児看護学Ⅰ	1 (30)			1 (30)
	小児看護学Ⅱ		1 (15)		1 (15)
	小児看護学Ⅲ		1 (30)		1 (30)
	小児看護学Ⅳ		1 (30)		1 (30)
	母性看護学				**4 (90)**
	母性看護学Ⅰ		1 (15)		1 (15)
	母性看護学Ⅱ		1 (30)		1 (30)
	母性看護学Ⅲ		1 (30)		1 (30)
	母性看護学Ⅳ		1 (15)		1 (15)
	精神看護学				**4 (90)**
	精神看護学Ⅰ	1 (30)			1 (30)
	精神看護学Ⅱ	1 (15)			1 (15)
	精神看護学Ⅲ		1 (30)		1 (30)
	精神看護学Ⅳ			1 (15)	1 (15)
	臨地実習				**16 (720)**
	成人看護学Ⅰ実習		2 (90)		2 (90)
	成人看護学Ⅱ実習		2 (90)		2 (90)
	成人看護学Ⅲ実習			2 (90)	2 (90)
	老年看護学Ⅰ実習	1 (45)			1 (45)
	老年看護学Ⅱ実習		1 (45)		1 (45)
	老年看護学Ⅲ実習			2 (90)	2 (90)
	小児看護学実習			2 (90)	2 (90)
	母性看護学実習			2 (90)	2 (90)
	精神看護学実習			2 (90)	2 (90)
	小計	6 (165)	21 (645)	11 (465)	38 (1275)
統合分野	**在宅看護論**				**4 (90)**
	在宅看護論Ⅰ		1 (15)		1 (15)
	在宅看護論Ⅱ		1 (15)		1 (15)
	在宅看護論Ⅲ		1 (30)		1 (30)
	在宅看護論Ⅳ		1 (30)		1 (30)
	看護の統合と実践				**4 (120)**
	看護の統合Ⅰ			1 (30)	1 (30)
	看護の統合Ⅱ			1 (30)	1 (30)
	看護の統合Ⅲ			1 (30)	1 (30)
	看護の統合Ⅳ			1 (30)	1 (30)
	臨地実習				**4 (180)**
	在宅看護論実習			2 (90)	2 (90)
	看護の統合と実践実習			2 (90)	2 (90)
	小計	0 (0)	4 (90)	8 (300)	12 (390)
合計		39 (1110)	43 (1095)	21 (810)	103 (3015)

イ　看護第二学科

授業科目			単位数(時間数)			
			第1学年	第2学年	第3学年	計
基礎分野	人間と生活・社会の理解	哲学と倫理学	1(30)			1(30)
		教育学	1(30)			1(30)
		心理学	1(30)			1(30)
		社会学	1(30)			1(30)
		人間関係論Ⅰ	1(15)			1(15)
		人間関係論Ⅱ			1(15)	1(15)
	科学的思考の基盤	物理学	1(30)			1(30)
		情報科学	1(30)			1(30)
		英語	1(30)			1(30)
		論理学	1(30)			1(30)
	小計		9(255)		1(15)	10(270)
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1(30)			1(30)
		解剖生理学Ⅱ	1(30)			1(30)
		生化学		1(30)		1(30)
		栄養学		1(15)		1(15)
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1(15)			1(15)
		薬理学		1(30)		1(30)
		病理学	1(15)			1(15)
		疾病と治療Ⅰ		1(30)		1(30)
		疾病と治療Ⅱ		1(30)		1(30)
		リハビリテーション学		1(30)		1(30)
	健康支援と社会保障制度	福祉における援助Ⅰ ― 選択	1(30)			1(30)
		福祉における援助Ⅱ ― 選択				
		保健医療福祉論		1(15)		1(15)
		医療と倫理		1(15)		1(15)
		障害者福祉論		1(15)		1(15)
		公衆衛生と関係法規			1(30)	1(30)
	小計		5(120)	9(210)	1(30)	15(360)
専門分野Ⅰ	基礎看護学					8(225)
		基礎看護学Ⅰ	1(30)			1(30)
		基礎看護学Ⅱ	1(30)			1(30)
		基礎看護学Ⅲ	1(30)			1(30)
		基礎看護学Ⅳ	1(30)			1(30)
		基礎看護学Ⅴ	1(30)			1(30)
		基礎看護学Ⅵ	1(30)			1(30)
		基礎看護学Ⅶ	1(15)			1(15)
		リハビリテーション看護	1(30)			1(30)
	臨地実習					
		基礎看護学実習Ⅰ		1(45)		1(45)
		基礎看護学実習Ⅱ		1(45)		1(45)
	小計		8(225)	2(90)		10(315)
専門分野Ⅱ	成人看護学					3(90)
		成人看護学Ⅰ	1(30)			1(30)
		成人看護学Ⅱ		1(30)		1(30)
		成人看護学Ⅲ		1(30)		1(30)
	老年看護学					3(90)
		老年看護学Ⅰ	1(30)			1(30)
		老年看護学Ⅱ		1(30)		1(30)
		老年看護学Ⅲ		1(30)		1(30)
	小児看護学					
		小児看護学Ⅰ	1(15)			1(15)
		小児看護学Ⅱ		1(30)		1(30)
		小児看護学Ⅲ		1(30)		1(30)
	母性看護学					
		母性看護学Ⅰ	1(15)			1(15)
		母性看護学Ⅱ		1(30)		1(30)
		母性看護学Ⅲ		1(30)		1(30)
	精神看護学					3(75)
		精神看護学Ⅰ	1(15)			1(15)
		精神看護学Ⅱ		1(30)		1(30)
		精神看護学Ⅲ		1(30)		1(30)
	臨地実習					10(450)
		成人看護学実習			2(90)	2(90)
		老年看護学実習			2(90)	2(90)
		小児看護学実習			2(90)	2(90)
		母性看護学実習			2(90)	2(90)
		精神看護学実習			2(90)	2(90)
	小計		5(105)	10(300)	10(450)	25(855)
統合分野	在宅看護論					3(90)
		在宅看護論Ⅰ		1(30)		1(30)
		在宅看護論Ⅱ		1(30)		1(30)
		在宅看護論Ⅲ		1(30)		1(30)
	看護の統合と実践					4(120)
		看護の統合Ⅰ			1(30)	1(30)
		看護の統合Ⅱ		1(30)		1(30)
		看護の統合Ⅲ			1(30)	1(30)
		看護の統合Ⅳ			1(30)	1(30)
	臨地実習					4(180)
		在宅看護論実習			2(90)	2(90)
		看護の統合実習			2(90)	2(90)
	小計			4(120)	7(270)	11(390)
合計			27(705)	25(720)	19(765)	71(2190)

（3）講師・専任教員の状況

（2019年3月31日現在）

区分		人数	備考
看護第一学科	外部講師	57人	（実習指導教員1名含む）
	内部講師	32人	
	専任教員	19人	
	計	108人	
看護第二学科	外部講師	42人	（実習指導教員1名含む）
	内部講師	25人	
	専任教員	8人	
	計	75人	
合　計		183人	

※　内部講師とは神奈川リハビリテーション事業団の職員

（4）実習病院状況

（施設）

区分		施設区分										合計
学科	領域	病院	介護老人保健施設 介護老人福祉施設	訪問看護ステーション	診療所・助産所	保育所・保育園	産業保健推進センター	総合健診センター	地域作業所	社会復帰施設	福祉型障害児入所施設	
看護第一学科	基礎	6										6
	成人	6										6
	老年	4	24									28
	小児	3				9					2	14
	母性	2			2							4
	精神	2										2
	在宅			13						1		14
	統合	2										2
	計	25	24	13	2	9	0	0	0	1	2	76
看護第二学科	基礎	2										2
	成人	1					1	1				3
	老年	1										1
	小児	3				9						12
	母性	2			8							10
	精神	1							4	1		6
	在宅		2	5	1							10
	統合	4										4
	計	14	2	5	9	9	1	1	4	1	0	48

（5）授業評価活動

魅力ある学校づくりのために、質の高い授業が展開できることを目的として、以下の５点を目標に掲げ平成17年から授業評価に取り組んでいる。

ア　授業に対する学生の取り組みと満足度を知り、授業評価を取り入れ教育目標を達成すること。

イ　学生の能力に応じた学習への動機づけとすること。

ウ　学生の評価を得ることで、授業の改善に活かすこと。

エ　他の教員、職員から評価を得ることで、教育力の向上に役立てること。

オ　臨地実習指導者との協働体制を整えられること。

授業評価の状況

区分	科目	講師の評価	専任教員の評価	実習評価
看護第一学科	基礎分野	13	0	0
	専門基礎分野	12	0	0
	専門分野	4	19	93
	計	32	19	93
看護第二学科	基礎分野	8	0	0
	専門基礎分野	10	0	0
	専門分野	2	8	68
	計	20	8	68
合計		52	27	161

授業評価の方法

※　1単位以上の講義を担当している講師・専任教員を対象に実施

（6）教員によるカリキュラム評価

看護第一学科

分野		科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
基礎分野	科学的思考の基盤	文章表現法	1(30)	修得状況	全員修得		授業評価は、全体的に高い評価である。成績の結果は、96.4%がA評価であり、知識習得もできた。	授業で習得された知識が、他授業や実習において活用できるように発展させることが課題である。
				出席率	99.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.65		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.68		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.61		
					授業の内容は理解できた	4.68		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.61		
				内容がシラバス通りか	シラバスに沿っていいるがオリジナル			
		体育	1(30)	修得状況	全員修得		授業評価は、全体的に高い評価である。特に「新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った」は4.71点と高く、成績の結果もA評価が100%である。	スポーツ・レクレーションをとおして、健康生活を支える運動について考えることができており、自己の健康管理に繋げていけるようにしていくことが課題である。
				出席率	99.8 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.38		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.51		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.59		
					授業の内容は理解できた	4.53		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.71		
				内容がシラバス通りか	シラバスの内容ではあるが、時間数が違う			
		化学	1(30)	修得状況	全員修得		授業評価の「授業内容に興味・関心を持つことができた」については。4.31点と高いが、「授業の内容は理解できた」については、3.83点、成績のC評価が21.4%であり、興味・関心はあるが理解には至っていないと考えられる。	成績の結果のC評価が21.4%であり、学力が低迷している学生に対する個別的な支援が課題である。
				出席率	99.4 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.59		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.69		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.31		
					授業の内容は理解できた	3.83		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.47		
				内容がシラバス通りか	はい			
		情報科学	1(30)	修得状況	全員修得		授業評価は全体的に高い評価である。成績の結果は、A評価が87%をしめており、知識・技術の習得ができた。	情報モラル、管理面についての知識習得はできており、実際に行動化ができることが課題である。
				出席率	99.3 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.34		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.49		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.37		
					授業の内容は理解できた	4.61		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.56		
				内容がシラバス通りか	はい			
		英語Ⅰ	1(30)	修得状況	全員修得		授業評価は全体的に高い評価である。成績の結果は、C評価が13.8%おり、授業内での理解はできていても、知識の定着ができていない学生が存在する。	知識を定着させるまで、学習習慣が身についていない学生に対する個別的な支援が必要である。
				出席率	99.9 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.55		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.72		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.59		
					授業の内容は理解できた	4.46		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.75		
				内容がシラバス通りか	はい			
		英語Ⅱ	1(30)	修得状況	未修得者あり		成績の結果は、約80%の学生がAまたはB評価となっている。バイタルサイン測定や与薬の場面での患者との英語を使ったやり取りなど、学生が興味・関心を持つことができ、新しい知識や技術、考え方の習得に繋がっていた。シラバスに基づき、授業内容が提示され、学習目標に沿った内容での授業であった。再試験該当者が受験せず、D評価となった。出席率は、98.9%と高い。	次年度も継続していく。
				出席率	98.9 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.27		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.39		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.20		
					授業の内容は理解できた	4.13		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.26		
				内容がシラバス通りか	はい			
	人間と生活、社会の理解	論理学	1(15)	修得状況	全員修得		授業評価は全体的に高い評価である。授業評価結果と反して成績の結果のA評価が68%にとどまる。一コマの授業内では理解はされても、15時間の時間を通して、論理的な思考を定着するに至っていない。	論理的な思考過程を学び、実践を繰り返し実施し、定着させることが課題である。
				出席率	99.1 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.44		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.48		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.48		
					授業の内容は理解できた	4.42		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.48		
				内容がシラバス通りか	はい			
		社会学	1(30)	修得状況	全員修得		授業内容はシラバスで提示されているが、その通りの進行でないと学生より意見があり、評価点数が低くなっている。取り上げられる授業テーマの一つ一つに対し、調査や討論が必要になる。そのため、一コマの時間内で理解ができる内容ではなく、授業評価において、「授業の内容は理解できた」が3.69点と低い結果となった、	予習を行い、授業内の討論を促進するために、自己学習課題や使用する資料の提示をシラバスで行う必要がある。
				出席率	99.9 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	3.97		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.18		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.01		
					授業の内容は理解できた	3.69		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.10		
				内容がシラバス通りか	はい			
		ボランティア論	1(15)	修得状況	全員修得		全体的に授業評価点数が高い。しかし、成績の結果のA評価は65%にとどまる。新たな知識に触れた段階でとどまり、知識の定着や自己の考えを新たにもつことに繋がっていない。	知識を得て、自己の考えを整理し論じることができるようになることが課題である。
				出席率	99.8 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.71		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.77		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.60		
					授業の内容は理解できた	4.50		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.66		
				内容がシラバス通りか	内容に沿っているが授業順番が違う			

分野	科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
	教育学	1(30)	修得状況	全員修得		成績の結果は、約60%の学生がB評価となっている。シラバスに基づき、授業内容が提示され、学習目標に沿った内容での授業であった。実際に臨床である場面をとりあげ、そのことについてチームで検討するなど授業内容に興味、関心を持つことができ、新しい知識や技術、考え方の習得に役立っている。 出席率も、98.9%と高い。	次年度も継続していく。
			出席率	98.9 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	3.93		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.05		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.05		
				授業の内容は理解できた	4.05		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.05		
			内容がシラバス通りか	はい			
	心理学	1(30)	修得状況	未修得者あり		授業評価点数は全体的に高い。その結果に反して、成績の評価のA評価は22.6%にとどまる。新たな知識は得ても、知識の定着には至っていない。	得た知識を定着させ、心理学の基礎的理論を活用し、人間理解に繋げることが課題である。
			出席率	99.6 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.54		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.67		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.51		
				授業の内容は理解できた	4.28		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.59		
			内容がシラバス通りか	はい			
	哲学	1(15)	修得状況	全員修得		成績の評価は、A評価56.1%、B評価34.1%合計90.2%である。ものの見方・考え方について多面的にみる経験ができ理解につながっている。	成績の評価は、C評価が9.8%であり、ものの見方・考え方について多面的にみる経験はできているが理解につながっていないため、多面的に考えられるような支援が課題である。
			出席率	99.8 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	内容に沿っているが学生の理解を深めるために授業順番を変更した			
	倫理学	1(15)	修得状況	全員修得		全体的に授業評価が3点台である。授業内容はシラバスにて提示されているが、生活者として、看護師として、人間としての生き方・人間としての問いかけの科目であり、倫理的な価値判断について理解した実感が乏しいと考える。	身近な社会事象に関して、様々な考え方や価値について討議できるように、具体的な予習の提示が課題である。
			出席率	99.8 %			
			授業評価	項目	評価点		
				講義における授業内容が提示されていた	3.86		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	3.99		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	3.89		
				授業の内容は理解できた	3.88		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	3.96		
			内容がシラバス通りか	内容に沿っているが学生の理解を深めるために授業順番を変更した			
	人間関係論Ⅰ	1(15)	修得状況	全員修得		「自分を知る」という目標では、自分という人間をどう定義するか内省する機会を設けた。「他者を知る」という目標では、定義した自己を他者に表現する、またそのフィードバックを受けて自己の再定義を行う機会を設けた。組織的活動とそのコミュニケーションの理解では、宿泊施設で一泊の共同生活を通して、学ぶことができていた。出席、レポート提出率はともに100%で、その後の学校生活の適応とい看護を学ぶスタートを切る支援として役割を十分に果たしていた。	入学後間のない中で宿泊、スタンツの準備など緊張が連続する中で、1週間で完了してしまう科目である。緊張を解きながら、宿泊のような負荷でなくとも、交流が図れ、自己を見つめ、他者に関心を持つ、内省する機会を構築していく必要がある。
			出席率	100 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
	人間関係論Ⅱ	1(30)	修得状況	全員修得		7月に宿泊研修で学習を深めた。他者と考え方を共有するプロセスを経験し、自己を知り他者を理解することの視野が広がっていた。	人間関係論Ⅱでの学びを活かし、卒業後も看護師としてのみならず、職場や個人の所属する組織において円滑な人間関係が営めることが課題である。
			出席率	99.3 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.29		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.40		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.32		
				授業の内容は理解できた	4.38		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.51		
			内容がシラバス通りか	はい			

分野		科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	2(60)	修得状況	未修得者あり		シラバスと実際の授業進度が異なり、本時にて次時の授業内容の提示はされているが、周知されていない結果と考えられる。 授業内容は関心のある内容であっても、授業評価の結果「授業の内容は理解」については3.04点であり、理解するまでには至っていない。この結果が成績のA評価が17%にとどまり、C評価が52.4%に影響している。	学生が予習できるよう、シラバスがわかりやすく、具体的な表現で記載されていることが必要である。 理解できる学生とできない学生の学力の差があり、個別的な対応を講じることが課題である。
				出席率（%）	99.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	3.81		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	3.95		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	3.70		
					授業の内容は理解できた	3.04		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	3.86		
				内容がシラバス通りか	生理学との関連性を考えてシラバス通りでなく変更した。			
		生理学	2(60)	修得状況	未修得者あり		シラバスと実際の授業進度が異なり、本時にて次時の授業内容の提示はされているが、周知されていない結果と考えられる。 解剖学と同様に授業内容は関心のある内容であっても、理解するまでには至っていない。	学生が予習できるよう、シラバスがわかりやすく、具体的な表現で記載されていることが必要である。理解できない学生、苦手意識の強い学生に対して、個別的な対応を講じることが課題である。
				出席率（%）	99.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	3.77		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.08		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	3.91		
					授業の内容は理解できた	3.45		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.13		
				内容がシラバス通りか	解剖学との関連性を考えてシラバス通りでなく変更した。			
		生化学	1(30)	修得状況	未修得者あり		シラバス通りの進行ができた。学生の関心の高い内容ではあるが、B評価、C評価が半数を占め、授業内容を理解するまでに至っていない。	自学自習を提示し、授業の理解の促進できるようにし、知識の定着が課題である。
				出席率（%）	99.4 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	3.97		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.09		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	3.52		
					授業の内容は理解できた	3.32		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	3.88		
				内容がシラバス通りか	はい			
		栄養学	1(30)	修得状況	全員修得		シラバスに基づき、授業内容が提示され、学習目標に沿った内容での授業であった。そして、授業内容に興味、関心を持つことができ、新しい知識や技術、考え方の習得に役立っている。 出席率は99.4%と高い。授業内容は理解できたと約4点であるが、成績結果は、Aが7割、Bが2割である。	次年度も継続していく。
				出席率（%）	99.4 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.15		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.23		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.21		
					授業の内容は理解できた	3.95		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.27		
				内容がシラバス通りか	はい			
		バイオメカニクス	1(15)	修得状況	全員修得		出席率も高く、成績もほぼA評価を占めている。 現行のシラバス内容で学習目標に到達できていると考える。	学習目標が今後も継続して到達できるよう講師と調整を図っていく。
				出席率（%）	99.8 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
疾病の成り立ちと回復の促進		病理学	1(30)	修得状況	未修得者あり		シラバス通りの進行ができ、授業内容も提示されている。授業評価の結果から「授業の内容は理解できた」については、4.2点、「新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った」については、4.56点である。しかし、成績の結果は、C評価が60%を占めている。授業での理解はできているが、知識が定着していないと考えられる。	自学自習を提示し、授業の理解の促進できるようにし、知識の定着が課題である。
				出席率（%）	99.5 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.33		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.43		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.31		
					授業の内容は理解できた	4.20		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.56		
				内容がシラバス通りか	はい			
		疾病と治療Ⅰ	1(15)	修得状況	全員修得		半数以上がC評価となっており、A評価が取れている学生が少ない。呼吸器と感染症について2名の講師による授業および試験となっており、呼吸器では13名、感染症では13名の学生が再試験対象となっていた。 出席率が高い状況でも試験で点数が取れていない結果から、学習目標に到達するためには理解に繋げる学習が必要となる。	学生の理解状況を確認しながら、学生が理解につなげられるような授業内容および、自己学習を進められるようなシラバスの表記としていく必要がある。
				出席率（%）	99.5 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
		疾病と治療Ⅱ	1(15)	修得状況	全員修得		9割以上の学生がA評価となっている。出席率も高い。 循環器と血液疾患について2名の講師による授業および試験となっており、関連性のある疾患についての科目となっていることもあり、高得点の試験結果となったと考える。	シラバスの変更は特に必要とせず、今後も継続して授業内容を知識として修得できるよう講師との調整を図っていく。
				出席率（%）	99.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
		疾病と治療Ⅲ	1(15)	修得状況	全員修得		9割以上の学生がA評価となっている。出席率も高い。 消化器内科と消化器外科と女性生殖器疾患について3名の講師による授業であり、試験は女性生殖器疾患を除く消化器のみの試験となっている。消化器の試験となっていることや、出席率も高く、学習目標の到達につながっていると考える。	消化器疾患については試験において知識習得できているかの確認ができるが、女性生殖器疾患については知識習得の確認ができていない状況がある。科目内容全体が学習目標に到達できるよう知識確認の方法を検討していく必要がある。
				出席率（%）	98.9 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
		疾病と治療Ⅳ	1(15)	修得状況	全員修得		9割以上の学生がA評価となっている。その中でもC評価が1.2%いることから、A評価とC評価の学生の学力の差が大きく表れている。 出席率は高い。 内容は脳神経と内分泌・代謝疾患、甲状腺疾患について3名の講師による授業であり、試験は脳神経のみとなっている。	脳神経に関しては十分到達していることがわかるが、内分泌・代謝疾患と甲状腺疾患についての知識習得状況を確認することができていないため、確認方法を検討していく必要がある。
				出席率（%）	99.2 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			

分野	科目	単位(時間数)	結果			分析	課題
	疾病と治療Ⅴ	1(15)	修得状況	全員修得		半数以上がA評価であるが、C評価が15%とやや多い。出席率は高く、授業を受けることはできているが、知識の十分な習得にまでは繋がっていないことが考えらえる。腎・泌尿器系の内科と外科疾患と治療、緩和医療について3名の講師による授業であり、試験は腎・泌尿器系の内科と外科疾患と治療についてのみである。試験結果は腎・泌尿器内科の試験が点数が低く、内科と外科の繋がりができていないことが考えらえる。	同じ臓器の疾患でも内科と外科をつなげて理解に繋げられるよう、関連付けたシラバスとしていく必要がある。また、緩和医療についての知識確認ができていないため、確認方法を検討していく必要がある。
			出席率 (%)	99.4 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
	疾病と治療Ⅵ	1(15)	修得状況	全員修得		全員が単位修得できているが、C評価が約19%とやや多い。出席率は高い。 内容は運動器系の疾患・末梢神経と筋疾患について3名の講師による授業であり、全てにおいて試験を実施している。運動器系の関節リウマチや変形脊椎症と末梢神経・筋疾患について試験の点数が低いため、A評価が30%代であった。	出席率は高いが、十分な知識の習得にまでつなげることが難しいこと、運動器と筋・神経をつなげて理解を深めることができるよう授業の進度や、学生が興味関心を持てる内容としていく必要がある。
			出席率 (%)	99.2 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
	微生物学	1(30)	修得状況	全員修得		授業評価結果より、「授業内容に興味・関心を持つことができた」については4.24点、「授業の内容は理解できた」については4.08点と高い。成績の結果については、A評価57.3%、B評価25.6%の合計82.9%であり、学生が理解できる授業内容であった。	授業の理解と知識の定着が継続されているの確認し、学力の低迷している学生に対して、個別的な支援が課題である。
			出席率 (%)	99.6 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.48		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.59		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.24		
				授業の内容は理解できた	4.08		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.49		
			内容がシラバス通りか	はい			
	薬理学 講師1	1(30)	修得状況	全員修得		薬理学総論と臨床薬理に分かれており、シラバスに基づき、授業内容が提示され、学習目標に沿った内容での授業であった。そして、授業内容に興味、関心を持つことができ、新しい知識や技術、考え方の習得に役立っている。 出席率は高い。授業内容は理解できたと評価されているが、成績結果としては、C評価が71.1%と多い。	学習の理解を深めながら、次年度も継続していく。
			出席率 (%)	99.2 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.74		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.75		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.70		
				授業の内容は理解できた	4.53		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.78		
			内容がシラバス通りか	はい			
	薬理学 講師2		修得状況	全員修得		薬理学総論と臨床薬理に分かれており、シラバスに基づき、授業内容が提示され、学習目標に沿った内容での授業であった。そして、授業内容に興味、関心を持つことができ、新しい知識や技術、考え方の習得に役立っている。内容の理解は、他と比較すると平均点は低い。出席率は高い。授業内容は理解できたと評価されているが、成績結果としては、C評価が71.1%と多い。	学習の理解を深めながら、次年度も継続していく。
			出席率 (%)	99.9 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.34		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.38		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.20		
				授業の内容は理解できた	3.88		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.33		
			内容がシラバス通りか	はい			
	リハビリテーション学	1(30)	修得状況	全員修得		リハビリテーション医学概論や理学療法概論、作業療法概論、嚥下障害とリハビリテーション等であり、多職種連携についての学習である。 A評価が96.4%を占めており、出席率も高い。学修目標は達成されたと考える。	学習の理解を深めながら、次年度も継続していく。
			出席率 (%)	99.7 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
健康支援と社会保障制度	福祉における援助	1(15)	修得状況	全員修得		授業評価結果より「授業内容に興味・関心を持つことができた」については、4.21点であり学生の関心の高い内容である。「授業の内容は理解できた」については、4.33点と高く、成績もA評価・B評価合わせて75.9%と成績結果にも反映されている。反対にC評価の学生は24.1%存在した。	学力が低迷している学生に対する個別的な支援が課題である。
			出席率 (%)	99.2 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.05		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.24		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.21		
				授業の内容は理解できた	4.33		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.28		
			内容がシラバス通りか	はい			
	公衆衛生学	1(15)	修得状況	全員修得		シラバスに基づき、授業内容が提示され、学習目標に沿った内容での授業であった。そして、授業内容に興味、関心を持つことができ、新しい知識や技術、考え方の習得に役立っている。出席率は99.4%と高い。授業内容は理解できたと評価されているが、成績結果は、Aが60.3%、Bが31.5%で、Cが8.2%である。成績の差があり、学習内容が理解されているか確認が必要である。	学習の理解を深めながら、次年度も継続していく。
			出席率 (%)	99.4 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.22		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.26		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.22		
				授業の内容は理解できた	4.23		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.38		
			内容がシラバス通りか	はい			
	関係法規	1(15)	修得状況	全員修得		成績の結果は、約95%がAまたはB評価、4.8%がC評価となっており、A評価とC評価の学生の差が大きい。 出席率は、98.9%と高い。 看護業務に携わる人の身分や業務に関する法の理解、職業人として健康な生活を維持するために必要な法令について学習した。	学習の理解を深めながら、次年度も継続していく。
			出席率 (%)	98.9 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
	社会福祉論	1(15)	修得状況	全員修得		社会福祉の考え方、理念、社会保障制度と社会福祉制度、福祉サービス等を学習した。 出席率は98.4%と高い。成績結果は、Aが50.6%、Bが32.5%で、Cが16.9%である。Cが多く、成績の差があり、学習内容が理解されているか確認が必要である。	学習の理解を深めながら、次年度も継続していく。
			出席率 (%)	98.4 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			

分野	科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
	保健医療福祉論	1(15)	修得状況	全員修得		シラバスに基づき、授業内容が提示され、学習目標に沿った内容での授業であった。そして、授業内容に興味、関心を持つことができ、新しい知識や技術、考え方の習得に役立っている。 出席率は高い。授業内容の理解は、他の評価と比較すると若干低いが、成績結果もAが95.2%であり、学修目標は達成されたと考える。	学習の理解を深めながら、次年度も継続していく。
			出席率（%）	99.9 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.04		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.07		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	3.81		
				授業の内容は理解できた	3.75		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	3.98		
			内容がシラバス通りか	はい			
	障害者福祉論	1(15)	修得状況	全員修得		シラバスに基づき、授業内容が提示され、学習目標に沿った内容での授業であった。そして、授業内容に興味、関心を持つことができ、新しい知識や技術、考え方の習得に役立っている。 出席率は高く、成績結果もAが96.4%であり、学修目標は達成されたと考える。	学習の理解を深めながら、次年度も継続していく。
			出席率（%）	99.5 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.21		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.36		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.22		
				授業の内容は理解できた	4.22		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.42		
			内容がシラバス通りか	はい			
	医療と倫理	1(15)	修得状況	全員修得		成績はB評価以上が62%であった。授業の組み立ては医師による医療倫理の後に専任教員の看護倫理の予定でいたが、看護が先行して開始となった。結果的には授業の全体像を初講時に理解できる点でよかったと考える。倫理は1年次より基礎分野や基礎看護学で基本的な内容を学んでいる。本授業は3年次科目ということで、領域実習と平行しながら看護実践への活用を意識して授業を進められたことは効果的であった。	15時間の内の12時間を専任教員が担当している。授業評価は実施していないが今後は実施していきたい。 今年度、本授業後に3年生の情報倫理に関する懲戒処分があった。授業において知識は修得しても、学生自身の行動として定着していないという課題を突きつけられた。看護師として、社会人として、倫理的感受性をさらに高められるような事例を授業に取り入れていく必要がある。
			出席率（%）	99.6 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	外部講師の時間数減に伴い、内容を変更した。			

分野		科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	1(30)	成績の結果	全員修得		生活上の身近な経験を看護に必要な抽象的言語の理解に結びつける内容で単元を構成した。学生は暗記ではなく、概念を理解し、説明できることを目指して、聞く、話す、記述する、説明するという経験を単元通して積み重ねた。そのことで、試験では概念を説明する記述問題が中心であったが、B評価が最頻値にならず出題者の予想を超える良いできであった。	看護学概論であるが、テキストには認定看護師制度、特定行為に係る研修制度、看護管理などが取り上げられてきている。看護の基礎だけでなく、最新の社会情勢や3年次の看護管理につながっていく内容などを、どのように一年次生に講義していけるかが今後の課題だと考える。
				出席率（%）	99.8 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.80		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.87		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.64		
					授業の内容は理解できた	4.48		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.66		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	なし			
		基礎看護学Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		試験結果から、約半数の学生はA評価であった。しかし、授業評価の「授業の内容は理解できた」が他の項目よりやや低値となっており、1/4の学生がC評価であるため、興味・関心は持つことができていたものの、理解には至っていなかったと考える。基礎看護学Ⅱは、安全・安楽と感染防止、安全管理に関する科目のため、新しい知識や技術の考えや習得には役立ったと考える。	興味・関心は高いが理解に至っていない状況があり、時間数も30時間である。そのため終講試験での評価だけでなく、講義の中で理解度を確認できるような機会を設けていくことが必要と考える。そうすることで、興味・関心を低下させることなく、学生が実感できる効果的な学びに繋げていきたい。
				出席率（%）	99.8 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.72		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.72		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.63		
					授業の内容は理解できた	4.57		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.77		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		基礎看護学Ⅲ	1(30)	成績の結果	全員修得		出席率、成績の結果としてA評価91.6%B評価が7.2%と合計98.8%を占めており、看護の対象にとっての環境を考え、生活環境をアセスメントすること、知識・技術の習得ができた。また、清潔で安全・安楽なベッドメーキングと環境整備の技術を身につけられる点においては、演習を行い、援助計画を活用しながら基礎看護学実習にむけて取り組めた。	4月から始まる講義であり、7月に終講する。夏休みまでの期間では実習に向けて演習に取り組むことができていたが、その後は他の演習を行うことが多く、ベッドメーキング、環境整備に関する魏j技術から離れてしまい、技術の一時的な習得にとどまっている。技術演習を取り入れ、技術演習の継続し続けることが課題である。
				出席率（%）	100 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		基礎看護学Ⅳ	1(30)	成績の結果	全員修得		一コマの授業に関しては、概ねカリキュラムに沿った内容の提示、実施ができた。実技試験の評価に関して、学生の技術が適正に評価されない評価となり、差し戻しが発生した。この点については、差し戻し後、適正な評価が実施できた。 2コマ連続した授業が必要な場合と、1コマのみで実施できる授業が存在する。そのため、外部講師の授業変更等に伴い、2コマ連続した授業の確保が難しくなり、演習順番を変更せざるを得ない状況となった。	技術の適正な評価が行えるための、評価内容の検討が課題。 演習予定日は可能な限り、時間割変更をしないための対策を講じる必要がある。
				出席率（%）	99.8 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		基礎看護学Ⅴ	1(30)	成績の結果	全員修得		授業評価はすべてが4点以上と高く、シラバス通りに授業を行うことができた。これはカリキュラム運営は概ね適切にできたことがいえる。 成績がC評価である学生が50%以上いた。計算能力が低下している学生が多く、BMIの計算を多数出題したことが影響していることが考えられる。	科目の理解を深めるために、関連したフィジカルアセスメントをシラバスに追加する。 成績に関しては、算数の学力低下が要因の一つとなっているため、授業初日の内容説明時、計算を必要となることを伝え、学生自身でも事前学習が行えるように支援する。
				出席率（%）	98.8 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.71		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.74		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.42		
					授業の内容は理解できた	4.52		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.26		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		基礎看護学Ⅵ	1(30)	成績の結果	全員修得		全体的に授業評価点数が高い。 しかし、成績の結果のA評価は24.1%であった。新たな知識に触れた段階でとどまり、C評価が47.0%と多い状況であり、知識の定着に繋がっていない。	次々と授業が進み、技術を一時的な習得にとどまっている。技術演習を取り入れ習得し、身につけられるようにすることが課題である。また、知識を確認する機会を授業内でも実施していく必要がある。
				出席率（%）	99.8 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.82		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.76		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.67		
					授業の内容は理解できた	4.72		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.76		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		基礎看護学Ⅶ	1(30)	成績の結果	全員修得		シラバス通りの演習、講義が行えた。 成績はB評価に集中し、43.4%おり、C評価の学生が22.9%となった。	基礎知識の定着が課題である。さらに、学力の低迷している学生の個別的な支援が必要。
				出席率（%）	99.6 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		基礎看護学Ⅷ	1(30)	成績の結果	全員修得		成績の結果については、A評価88.0%、B評価6.0%の合計94.0%であり、学生が理解できる授業内容であった。看護過程のプロセスを踏むという点においては、事例から展開することに時間をとり整理することで理解できたと考える。	まずは個人で実施し、その後グループで検討するスタイルをとったが、グループで検討したことを個人のワークに記録することがあり、個人での思考を踏む機会が少なかった。今後は個人で行い、思考力をつける力ことが必要である。
				出席率（%）	99.6 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		基礎看護学Ⅸ	1(30)	成績の結果	未修得者あり		評価の平均点が65点であり、学年平均と比較すると低値であった。臨床看護総論であるため、呼吸困難や痛みなど、解剖生理から症状のメカニズムや必要な看護を考えるなど、思考の整理が大変であったと考える。終講試験はタクソノミーⅠ型の問題だけでなく、Ⅱ型・Ⅲ型の問題が多く、この部分での点数に差がみられ、大多数の学生が点数に結びつかなかった。また、再試験該当者も28名と多く、うち2名はD評価となった。	タクソノミーⅡ型・Ⅲ型に繋がるような問いかけを 講義の中で多くし、その行動に至る根拠を口頭 で説明する機会を設けていく必要があると考える。
				出席率（%）	99.8 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	なし			

分野	科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
	基礎看護学Ⅹ	1(30)	成績の結果	全員修得		試験結果から、約84%の学生がAまたはB評価であった。針を用いた演習が多く、針刺しをした学生の体験などから、医療安全も考えた学びに繋がった。出席率は99.1%であったが、針を使用した演習で気分不快となる学生が数人いた。成人看護学Ⅱの実技試験に合わせ、シラバスで予定していた日程を早め、点滴静脈内注射の講義・演習を行ったが、他の単元への影響など、混乱することなく実施できた。	シラバスは、成人看護学Ⅱの実技試験に向けて、組立てを変更した。針を用いた演習に関しては、針刺しや気分不快などがないように、学生が行動できるような仕組みを作っていく必要があると考える。また、与薬の演習では、現在よりもより詳細な設定をした上で、実際を想定した演習を進め、学生が考え行動できるようにしていく必要があると考える。
			出席率（%）	99.1 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	技術試験に合わせ点滴静脈内注射を早めたため、シラバスに変更があった			
			看護技術演習が予定通りできたか	はい			
	リハビリテーション看	1単位(30)	成績の結果	全員修得		外部講師の授業が10／30時間あり、その日時調整により、シラバスの順番通りに進めなかった。内容の変更はない。 成績は半数以上がC評価だった。これは疾病の授業がないまま、障害のある対象の看護を考えていかなければならず、授業内容の理解が不十分だったことが考えられる。	外部講師とシラバスの順番で授業が進められるように調整をする。 学生が対象をイメージできるような工夫が必要である。
			出席率（%）	99.0 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	外部講師との日時調整により順番の変更があった			
			看護技術演習が予定通りできたか	はい			
	基礎看護学Ⅰ実習	1単位(45)	成績の結果	全員修得		成績評価はA92.8%,B7.2%であり、、実習評価は4.37～4.65という高い評価であった。中でも、【学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった】は4.64で、【総合的に満足であった】は4.65であり高評価であった。学生は初めての実習で療養環境を知り、患者とのコミュニケーションをとり、環境整備を実施する目的が達成できた。	環境測定に関して、各施設で器具を持参して実施している。事前に測定する箇所を決めておくが、イメージがついていない学生もいた。基礎看護学Ⅲの授業で環境即手の場面を設定しているが、学生が測定する箇所を決められるようなオリエンテーションが必要である。
			出席率（%）	99.1 %			
			実習評価	項目	平均点		
				オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.59		
				学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.64		
				この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.56		
				この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.37		
				学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.65		
			内容がシラバス通りか	はい			
	基礎看護学Ⅱ実習	2単位(90)	成績の結果	全員修得		シラバス通りの実習が行えた。 成績はA評価・B評価を合わせると約98%であった。また、実習評価としても、総合的に満足であったと感じた学生が4.6点と高かった。専門的技術を身につけることができたと感じた学生が、他の項目に比べるとやや低かった。	専門的技術に関して、学生が習得できたと感じられるような介入が必要である。
			出席率（%）	98.7 %			
			実習評価	項目	平均点		
				オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.44		
				学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.35		
				この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.38		
				この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.27		
				学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.60		
			内容がシラバス通りか	はい			

分野		科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学Ⅰ	1(15)	成績の結果	全員修得		成績結果は、A73.5%、B19.3%と合わせて90%を超えており、学習内容の理解が概ねできている。しかし、授業評価では、『授業の内容は理解できた』4.28点、『授業内容に興味・関心を持つことができた』4.34点とやや低めであり、若干の成績結果との乖離がみられる。概論であり、定義の理解を問われることから難しさを感じる学生がいたのかもしれない。シラバスに関しては、一部変更を行ったが、概ねシラバス通りの実施はできた。	授業内で、興味・関心をもてるような教材の工夫を行っていく。 また、授業内で理解をできるよう小テストを行っていき、その都度の理解度を確認し、方略の検討および知識の積み重ねを行っていく。
				出席率（%）	99.8 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.65		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.63		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.34		
					授業の内容は理解できた	4.28		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.32		
				内容がシラバス通りか	教育実習生ができなかった範囲をカバーしたため、変更した。			
				看護技術演習が予定通りできたか	なし			
		成人看護学Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		授業評価から周手術期の術後侵襲の理解、大腸がんの手術を受ける患者の看護過程展開を通して三側面の変化についてグループワークなどを取り入れながら実施することができ、概ね理解することができたと考える。筆記試験、技術試験の合算であったが、80%以上の学生がA評価であり、周手術期の理解と技術が身につけられたと考える。	周手術期の内容については、様々な術式で経過していく患者・、家族について理解できるようにするため、開腹術、運動器疾患を網羅できるような組み立てへ変更した。また、周手術期の術前から術後までの看護実践ができることが課題であったため、各回を講義・演習の形式に変更し、課題に取り組めるようにした。さらに、退院後の生活ついて考えられるような内容も必要であるため、内容を追加している。
				出席率（%）	99.4 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.62		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.62		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.42		
					授業の内容は理解できた	4.42		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.53		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		成人看護学Ⅲ	1(30)	成績の結果	全員修得		急性期の患者家族の3側面を踏まえた理解は生活習慣病が原因で起こる呼吸器疾患や心、血液疾患、アレルギー、膠原病、感染症について解剖学や疾病・治療に関する既習内容を復習し知識を繋げていくことが課題である。また、患者検査に関しては検査方法やデータの評価に関する知識は理解できていたが、12誘導の装着の技術は卒業までに指導者の立ち合いのもとで実施できるまでは至っていなかった。	成人期に生じやすい急性期の経過をたどる特有の疾患（肺がん、気胸、狭心症、心筋梗塞、肝臓がん、胆石、アレルギー、膠原病、感染症（HIV含む）、貧血、白血病、悪性リンパ腫をシラバスの学習内容に具体的に提示し学生が事前学習に取り組める内容に変更していく。検査に関しては急変時に12誘導心電図の装着が速やかに実践できるよう臨床検査技師による演習を実施していく。
				出席率（%）	99.4 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.20		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.27		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	3.94		
					授業の内容は理解できた	3.90		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.02		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	なし			
		成人看護学Ⅳ	1(30)	成績の結果	全員修得		回復期の概要学習後、脊髄損傷、変形性股関節症、高次脳機能障害の学習ができた。また、各疾患を学習する中で、患者のイメージ化を図るために、患者の映像を取り入れた。事例設定を行い、その対象を想定した演習をすることでより看護をイメージ化することができた。その後、家族を支える看護を行うことで、患者像を深めながら家族への看護を考えることができた。3回の授業で演習を行った。	次年度は、回復期とリハビリテーション期を含めた概要を学習し、成人期の回復期とはについて深めていく。その他は継続していく。
				出席率（%）	99.2 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.42		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.42		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	3.83		
					授業の内容は理解できた	4.10		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.00		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		成人看護学Ⅴ	1(30)	成績の結果	全員修得		成績結果より学習内容の理解が概ねできていると考える。しかし、授業内の看護過程の記録では、根拠が不十分である学生もいるため、今後も支援が必要と考える。 シラバスに関しては、講義日程上看護過程を時間をかけて進めたかったため、先へと順番の一部変更を行ったが、シラバス内容通りの実施はできた。出席率については、再履修科目のある学生の欠課がほとんどであった。	看護過程の支援を行っていく。個々のアセスメント能力が高めていけるよう、グループワークではなく、個人でのワークを中心に行っていけるよう授業を組み立てていく。
				出席率（%）	99.2 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	糖尿病患者の看護過程の展開を先に行い、他の慢性疾患を後にした			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		成人看護学Ⅵ	1(30)	成績の結果	全員修得		がんや非がん患者の軌跡や人生の最期を迎える患者家族の看護について考えるものであった。成績の結果から、C評価が10%であった。非がん患者の看護について内容が混在していることもあるため、より理解が深まるような組み立てについて検討していく必要があると考える。	2019年度より、非がん患者の疾患や内容の検討を行い、慢性期疾患、進行性の神経難病、脳死患者を盛り込み、より人生の最期を迎える患者、家族の軌跡や看護を考えられる内容へと変更している。また、在宅看護論と内容が重なるものについても整理を行い学習できる内容とした。
				出席率（%）	99.2 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		成人看護学Ⅰ実習	2(90)	成績の結果	全員修得		看護の知識及び看護技術の実践が概ねできていると考える。急性期・慢性期実習で指導者や教員の助言を受けながら、日々対象患者を捉え看護実践が行えた。しかし、専門的技術を身につけるが3.98点と低く、対象への看護実践の難しさを実感したと考えられる。出席率は、感染症に罹患し、全日程欠席した学生がいたことで低くなっている。	看護技術を自信をもって行えるよう学内での演習を支援していく。実習で実践できる機会を得られるように努めていく。
				出席率（%）	98.6 %			
				実習評価	項目	平均点		
					オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.05		
					学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.25		
					この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.24		
					この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	3.98		
					学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.24		
				内容がシラバス通りか	はい			
		成人看護学Ⅱ実習	2(90)	成績の結果	全員修得		A評価63.6%、B評価34.1%と97%を超えており、看護の知識および看護技術の実践が概ねできている。成人看護学Ⅰ実習から学生メンバーを継続することで課題を持ちながら、実践を積み重ね、成績結果も上がった。しかし、専門的知識、専門的技術では点数が低く、より知識・技術が必要であることを課題と感じたと考える。出席率は、時期的にも体調管理による欠課が多かった。	3年次の実習へ向けて、解剖生理から病態の理解や安全・安楽を考慮した看護実践を行えるよう、支援していく。次年度も引き続き、成人看護学Ⅰ・Ⅱ実習は並行実習として行っていく。
				出席率（%）	99.6 %			
				実習評価	項目	平均点		
					オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.06		
					学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.38		
					この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.17		
					この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.06		
					学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.33		
				内容がシラバス通りか	はい			
		成人看護学Ⅲ実習	2(90)	成績の結果	全員修得		前ゼミでの事例患者の看護過程の展開や技術演習はグループで主体的に取り組み知識・技術の研鑽に努められた。患者との日々の関わりからニーズを捉え看護過程の展開に繋げ、治療や安静度による影響、身体・心理状態をアセスメントし、日常生活援助が実践できた。カンファレンスでは討議を通じてチームにおける問題解決能力や表現力、看護観を養うことができた。	リハビリテーション期の患者の看護実践ができるためには、1年次・2年次で学ぶ基礎分野、専門基礎分野、基礎看護学および成人看護学全般で学ぶ知識・技術、成人看護学Ⅰ・Ⅱ実習での経験の積み重ねが重要となる。そのため、リハビリテーション期にある成人期にある患者の看護過程の展開、実践に必要となる知識・技術を段階的に修得できるカリキュラムの検討が必要である。
				出席率（%）	97.3 %			
				実習評価	項目	平均点		
					オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.42		
					学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.35		
					この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.44		
					この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.39		
					学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.38		
				内容がシラバス通りか	はい			

分野	科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
老年看護学	老年看護学Ⅰ	1(30)	成績の結果（%）	未修得者あり		AB評価の学生とCD評価の学生が明確にできたが、老年看護学に必要な基礎の思考が養えていないことが懸念されるため、以降の学習が効果的に繋がるように学習状況を把握していく必要性がある。シラバスの内容は、実習の進捗状況を考慮しながら適宜変更していくことで大きな問題はなかったと考える。高齢者との関わりが少ない現状を考慮すると、テキスト上の学習のみでなく敬老会などの視覚的な理解は必要だと考える。	国際福祉機器展での最新機器の見学が、実際の施設実習の学びと効果的に繋がりを持っていない現状があったため、見学前の説明を強化していく。
			出席率（%）	99.7 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	なし			
	老年看護学Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		健康維持・増進のための援助技術を学ぶため、演習は事前に資料を配布し、演習を通して技術修得に向けて協調性を持ち取り組めた。授業評価でも新しい知識や技術・考え方の習得に役立った項目は4.6であり、終講試験もA評価が62.7%であった。看護過程は、老年看護学Ⅱ実習の記録用紙を活用し、講義・ワークをしたことで理解につながり、老年看護学Ⅱ実習に繋がる看護展開ができた。	演習が、領域2人の教員が実習と併用すること、学内教員との授業・演習とも重なり協力を得ることが困難な中、十分な授業方略が課題となる。
			出席率（%）	99.7 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.58		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.59		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.49		
				授業の内容は理解できた	4.47		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.60		
			内容がシラバス通りか	外部講師の日程により授業が前後しシラバス通りでない			
			看護技術演習が予定通りできたか	整容・爪切りの演習で爪切りに時間を要し、整容は予定通りにできなかった			
	老年看護学Ⅲ	1(15)	成績の結果	全員修得		テキストを中心に展開とし、理解を難しいと考えられる内容に関しては画像を多く活用した。そのことにより、理解を促すことができたと考えられる。基礎学習を踏まえたうえでの展開をしていったが、C評価の学生が基礎学習が不十分であると判断できる結果となったため、以降の実習で重点的に確認していく必要があると考える。	テキストでは理解が難しい内容の把握と、効果的な視覚教材の選定。
			出席率（%）	99.5 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.69		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.67		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.62		
				授業の内容は理解できた	4.79		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.68		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	はい			
	老年看護学Ⅳ	1(30)	成績の結果（%）	未修得者あり		高齢者に特徴的な健康障害の病態・症状・治療・検査・看護について考えられるように、臨床の立場の看護師の視点を大事にしながら、講義・グループワークを実施し、専門職業人としての基礎づくりとなるような講義内容とした。看護過程の展開は、知識を基に展開できるように知識と統合し看護展開はできていた。しかし、確実な知識を問う記述式の試験では、曖昧な記憶であり、55%の学生がC評価であり専門的学習の深化に努めることにつながらなかった。	専門的学習を主体的に行い、専門職業人としての基礎づくりとなるような、確実な知識として自ら学ぶ力を付けることができるような講義内容が課題である。
			出席率（%）	99.1 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	実習室の予約や教育実習生の授業担当があり、シラバス通りでない			
			看護技術演習が予定通りできたか	技術演習はなし			
	老年看護学Ⅰ実習	1(45)	成績の結果	全員修得		敬老会と国際福祉機器展は病院実習とは違い、学内での慣れた環境で実習を行えるため学生が活気ある実習をすることに繋がっていると考えるが、逆にその慣れた環境が実習であるという緊張感を欠くリスクがあるため、実習であることの周知徹底が必要と考える。施設実習は、見学実習であり、施設の実際を知る場となっている。評価判断が個々の捉えた評価となっていない可能性もある。	敬老会や国際福祉機器展が実習の位置づけであることの徹底周知。 施設実習中の教員引率。
			出席率（%）	100 %			
			実習評価	項目	平均点		
				オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	なし		
				学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	なし		
				この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	なし		
				この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	なし		
				学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
	老年看護学Ⅱ実習	1(45)	成績の結果	全員修得		介護老人保健施設で生活されている高齢者を対象に受け持ち、臨地実習において初めて看護過程の展開をしながら、必要な看護を見出し看護を展開する実習である。A評価が99.8%であるが、実習評価での満足については、4.53にとどまっている。また、施設で生活されている高齢者に対する実習であるが、「領域で学べる専門的知識・技術を身につけることができた」は共に4.5以下であった。	老年看護学Ⅱ実習では施設で生活されている高齢者であり、セルフケア不足がある中での生活支援のため、看護問題と捉えるのかが難しい。今後、ICFの視点から、施設内でのケアプランを基に生活支援を考えられるような看護過程の展開が課題である。教員の評価と学生の実習評価が一致するように、各施設での学びに差が生じないように調整していくことも課題である。
			出席率（%）	99.8 %			
			実習評価	項目	平均点		
				オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.28		
				学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.34		
				この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.49		
				この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.29		
				学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.53		
			内容がシラバス通りか	シラバス通りである			
	老年看護学Ⅲ実習	2(90)	成績の結果	全員修得		健康障害をもった老年期にある人および家族に対して、加齢による変化を踏まえ、知識と技術と統合させ、急性期病院において看護を展開できるように支援した。その結果、C評価が10.8%と昨年度より減少した。実習を通して、看護の専門性や役割を感じ、看護観を表現できるように支援し、専門的知識を身についてること、総合的な満足が高い評価となった。	出席率98.9%と欠席する学生が数名いた。7クールの実習中の体調管理ができるような支援が課題である。この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができたの評価が4.49と最も低く、専門職業人として技術が習得できるように実習施設との調整と個々の学生の技術到達度との確認が課題である。
			出席率（%）	98.9			
			実習評価	項目	平均点		
				オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.59		
				学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.55		
				この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.62		
				この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.49		
				学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.59		
			内容がシラバス通りか	はい			
小児看護学	小児看護学Ⅰ	1(30)	成績の結果	全員修得		1. 小児と家族の諸統計については、出生数、合計特殊出生率及びその年次推移、子どもの死亡など具体的に学習していく必要がある。そのため、シラバスの進行を変更して小児と家族の諸統計を2時間かけて授業を行った。カリキュラムを通して小児に接した経験が少ない学生に対して小児看護学Ⅰの内容は必修である。ただし、今後、現代に多くなっている災害に関する支援も取り入れていく必要がある。国家試験にも出題されることがあるため追加の必要性がある。	次年度に向け、分析に記載品内容が網羅されるようシラバスの変更を実施していく。
			出席率（%）	98.9 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.49		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.58		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.24		
				授業の内容は理解できた	4.30		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.28		
			内容がシラバス通りか	小児と家族の諸統計については、今後、公衆衛生に繋げていくこと、国家試験の問題出題も考慮し2時間をかけて実施した。			
			看護技術演習が予定通りできたか	なし			
	小児看護学Ⅱ	1(15)	成績の結果	全員修得		授業の関心の高さから、小児の疾患について学生が学習に取り組み、成績のA評価の多さにつながっていると考える。シラバス通りに進められているが、老年、成人を中心とした学習をしてきた学生にとって、身体的にも異なる小児疾患のイメージが付きにくいこと、小児は循環器などの領域ごとに分けることなく全領域を15時間で学習していく内容の量から内容の理解につながりにくいことが考えられる。	シラバスの項目の多さから、他の領域と重なるところについて整理が必要である。2019年度は病理学と内容が重なる出生前疾患については項目を整理し対応している。
			出席率（%）	99.7 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	3.85		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	3.96		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.04		
				授業の内容は理解できた	3.58		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.11		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	なし			

分野	科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
	小児看護学Ⅲ	1(30)	成績の結果	全員修得		成績結果A評価96%以上。演習を中心としている科目であるが講義の内容と演習を組み合わせていることから理解が深まり試験結果に反映されていると考える。小児の日常生活にかかわる技術演習のため成人・老年とは異なる視点であったり、関わりであるため実習前の2年次生にとっては関心の高さがうかがえた。また、講義の最後におもちゃの演習を実施したことで、学習した内容を活用し実践につなげられたことから授業の内容の理解が深まったと考えられる。	授業内容の提示については、初講時には全体の講義の進行について、演習日程を含めた説明を行っている。学生の理解、関心を高めていくためにも、事前学習につながる項目や説明が今後の課題であると考える。また、小児看護学の理解は発達についてどれだけイメージできるかが重要である。小児Ⅰで学習した内容を活用し、Ⅲの演習で発達や身体的な動きも理解した状況で演習に臨めるようにし、Ⅳの疾患を持つ患児
			出席率（%）	99.4 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.62		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.69		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.69		
				授業の内容は理解できた	4.69		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.68		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	はい			
	小児看護学Ⅳ	1(30)	成績の結果	全員修得		A評価74.7%高い値であり、疾患を持つ患児の看護を習得することができていると考える。小児看護学Ⅳは11月、12月の講義が集中している。体調不良で欠席してしまう学生も多く、他の小児看護学より若干出席率が低下している状況が見られた。シラバス通りの進行、演習日程に変更なく進行できたことは学生の学習に混乱なく進められたと考える。	小児疾患を学習したうえでの小児看護学Ⅳの学習が進められる状況であるが、シラバス後半の演習などが予定されていることから、欠席する学生の多い時期とも重なってしまう。演習の補修講義の計画実施、その補習も体調不良で欠席してしまう学生への再調整などが課題となった。学習進度を考え、演習の時期の再検討なども補習講義の時期も考えていく必要がある。
			出席率（%）	98.6 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	はい			
	小児看護学実習	2(90)	成績の結果	全員修得		B評価77%は、病棟実習4日間の看護過程の展開の速さとともに、受け持ち児の確保のむずかしさにあったと考える。小児Ⅲの遊びの演習で健康な保育園児との関わりを経験したことから、積極的に児と関わり、必要な看護を考えられた。短期間の病棟実習でありながら、満足度が高い結果となったのは、必要な看護が明確となり技術を実施できたこと、実施する技術が演習内容と大きくずれていないことからであったと考える。	保育所を含む実習施設の多さから、説明が複雑化しオリエンテーションでは十分施設のイメージがつきにくいのが課題である。早期に退院していく患児とかかわれる時間を確保していくためにも臨床と調整し援助に積極的に入り早期から実施できるよ、実習前の演習を充実していく必要がある。
			出席率（%）	99.5 %			
			実習評価	項目	平均点		
				オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.49		
				学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.73		
				この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.55		
				この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.53		
				学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.62		
			内容がシラバス通りか	はい			
母性看護学	母性看護学Ⅰ	1(15)	成績の結果	全員修得		カリキュラムでの表示を教科書の目次通りに変更したため、進度の調整がしやすかった。母性を取り巻く社会の現状に関心を持ち、健康の維持促進が考えられるようにグループワークを取り入れた。また、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状については、教科書に書いてあることだけでなく、「身近な現状」も調べるなど積極的に学んでいた。評価もAが、99.7%で効率であった。	15時間の中で母性看護の基盤となる概念の理解につながるための学習の進め方を一方的でなく自己学習をしていきたくなる学習刺激をしていく必要がある。母性看護の対象者のどの段階でどのようにかかわっていくのか、特に思春期の性教育のあり方を考えられる教授の工夫が必要。
			出席率（%）	99.7 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	内容はシラバス通りであるが、質問・発表等で、一部進度に遅れがあった			
			看護技術演習が予定通りできたか	なし			
	母性看護学Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		2人の講師が妊娠期と分娩・産褥・新生児に分け、教授した。カリキュラム上臨床での事例を活用したことで、学生はより具体的に母性看護の実際が理解できた。また、マタニティーサイクルにある女性を看護するための基礎知識を学び、身体的・心理的・社会的特性の理解について、教科書だけでなく、臨床での事例を紹介しながら教授したことで内容の理解につながったといえる。	母性看護学Ⅳで、看護家庭展開として統合していくため、臨床に依頼している母性看護学Ⅱとの連動が課題である。事例の共有も含め、今後取り組んでいく。
			出席率（%）	98.8 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.33		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.43		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.47		
				授業の内容は理解できた	4.37		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.48		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	演習希望があったが、実習室が取れず、教室で行った。			
	母性看護学Ⅲ	1(30)	成績の結果	全員修得		女性生殖器に起こりうる様々な疾患と、妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常経過について医師より具体的な教授を受け、学びを深めることができた結果といえる。また、毎回の講義で、国家試験問題を提示し、考え方や何を問われているのかを解説していった結果、理解の深まりにつながったといえる。	妊産褥婦の異常経過と女性生殖器系の疾患とに分けて講義依頼した。毎回講師が変わりそれぞれの専門を教授していただふ方略は初めてである。今後、評価していく。
			出席率（%）	98.4 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.28		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.47		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.57		
				授業の内容は理解できた	4.59		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.57		
			内容がシラバス通りか	講師の変更に伴い、カリキュラムの内容を開始前に修正した。			
			看護技術演習が予定通りできたか	ない			
	母性看護学Ⅳ	1(15)	成績の結果（%）	未修得者あり		褥婦（初産婦）の事例を提示し、グループワークを行った。産褥期の正常経過を支援する援助を具体的に考え、演習で実施できるようにした。授業の内容が理解できたかが3.95となったのは、グループワークや演習への参加状況に差が出た結果といえる。新生児の看護では、出生直後からの経日的変化や観察法、沐浴等を演習した。対象褥婦への生活指導や継続看護について、パンフレットを作成し、臨地実習で活用できるように考えることができた。	母性看護学Ⅳで、看護家庭展開として統合していくため、臨床に依頼している母性看護学Ⅱとの連動が課題である。事例の共有も含め、今後取り組んでいく。
			出席率（%）	98.9 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.30		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.33		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.20		
				授業の内容は理解できた	3.95		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.37		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	はい			
	母性看護学実習	2(90)	成績の結果	全員修得		90時間の実習の中で2人または3人の方を担当した。母子の特徴を理解し、看護過程の展開を基に個に応じた看護や児を取り巻く環境について学びを深めることができた。オリエンテーションを受けた情報を活用できたかが4.32であり、対象者の産後の経過がうまく活用できなかった結果といえる。領域で学べる専門的知識が学べ、専門的技術を身につける体験でき、達成感のある実習であった。	実習施設が2か所で離れている。施設の違いにより、指導に差がでないようにしていく。
			出席率（%）	98.9 %			
			実習評価	項目	平均点		
				オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.32		
				学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.68		
				この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.72		
				この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.62		
				学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.62		
			内容がシラバス通りか	はい			
精神看護学	精神看護学Ⅰ	1(30)	成績の結果	全員修得		成績の結果としては6割の学生がA評価であることから、学修目標に到達できた学生が多かったと考える。その反面、C評価の学生が約2割であることや、授業評価の興味・関心、内容の理解、知識や技術の修得に役立つという項目が他に比べて低かった。	こころの仕組みや働きは目に見えにくいものであるが、精神看護の実践では重要な科目である。 今後は、興味関心のもてる動機づけの授業方略や、授業内容が知識や技術の修得につなげられるよう、ロールプレイなどを用いて構成していくことを検討していく。
			出席率（%）	99.1 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.79		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.88		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.69		
				授業の内容は理解できた	4.54		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.62		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	なし			

分野	科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
	精神看護学Ⅱ	1(15)	成績の結果	全員修得		精神看護学Ⅱは、精神の健康状態を理解したうえで学習するシラバス内容となっている。しかし、授業進度が精神看護学Ⅰと並列していたことから、シラバス通りの内容ではあるものの内容の説明を多く必要としていた。このことから、成績の結果割合として	精神看護学Ⅱは、精神看護学Ⅰを履修することによって興味関心や理解につながる学修内容であることから、授業進度を並列にするのではなく、精神看護学Ⅱの授業時期を遅くする必要がある。 また、精神疾患を抱える人のイメージが持てるようメディアや当事者との交流など授業方略を検討していく必要がある。
			出席率（%）	99.1 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	なし			
	精神看護学Ⅲ（疾患）	1(30)	成績の結果	全員修得		9割の学生がA評価を修得することができている。 出席率も高いことから、授業をほぼ全学生が受講することができていることから、成績につながっていると考える。 授業評価の平均点としては全項目において4.5以下となっており、シラバスに記載されている順に授業が進められなかったことや、精神疾患の病態に興味関心をもち、理解につなげる点において課題が残ると考える。	精神看護学Ⅰ～Ⅳにおいて、精神看護学Ⅲのみが精神科の学習内容となっていることから学習内容が浅く広く組み立てられている。精神科医療や国家試験対策としては必要な疾患を選定しているが、授業の進め方も併せ、講師と調整を図り、学生がわかりやすい進度へとシラバスを修正していく必要もある。
			出席率（%）	99.5 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.50		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.49		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.35		
				授業の内容は理解できた	4.28		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.43		
			内容がシラバス通りか	講師の授業の進め方として、ICD10分類のF0～F9の順で授業を進めているためシラバス通りに行かないことがある。			
			看護技術演習が予定通りできたか	なし			
	精神看護学Ⅲ（看護）		成績の結果	全員修得		9割の学生がA評価を修得することができている。出席率は再履修を受講する学生が欠課している状況が多く、98.4%となっている。 授業評価の平均点としては全項目において4.6以上となっていることから、学習目標に合わせ興味関心を持ちながら授業を進められいたと考える。精神疾患の学習を終えてから看護の授業となる進度であることから、学生は興味関心や理解につなげやすいことがあるのではないか。	精神看護学Ⅰ～Ⅳにおいて、精神看護学Ⅲのみが精神科の学習内容となっていることから学習内容が浅く広く組み立てられている。外部講師からも1つの疾患を教える時間に限りがあり、授業の組み立てに戸惑いが生じるという意見も聞かれていた。精神科医療や国家試験対策としては必要な疾患を選定しているが、代表的な統合失調症や気分障害に時間がとれるようなシラバスとしていくか検討していく。
			出席率（%）	98.4 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.67		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.70		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.63		
				授業の内容は理解できた	4.60		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.62		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	なし			
	精神看護学Ⅳ	1(15)	成績の結果	全員修得		A評価が多かったことから、殆どの学生が学修目標を到達することができたと考える。また、この精神看護学Ⅳは精神看護学実習の履修要件であることと、4月に15時間を修了する進度であることから出席率が100%という結果となった。 成績の結果がA評価が多い中、B評価とC評価の成績となった学生は、試験問題に対する文章表現を課題としていることが多かった。	学修目標の到達状況を確認する試験において、文章表現を課題として得点を取ることができない学生がいたことから、試験の出題を学習目標の到達状況が判断できる内容に限定していく必要がある。
			出席率（%）	100 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	はい			
	精神看護学実習	2(30)	成績の結果	全員修得		A評価が少ないことから、実習目標に到達できるための学習や指導が十分ではなかったと考える。 精神科領域の専門性についてはコミュニケーション以外にも知識や技術の修得を望んでいる学生の意向が読み取れる。	実習目標を学生が理解し取り組みやすい内容へと検討していくことが必要。さらに、実習目標に到達できるよう、場面を教材化しながら指導者と連携を図り指導にあたっていく。
			出席率（%）	99.6 %			
			実習評価	項目	平均点		
				オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.49		
				学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.56		
				この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.59		
				この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.59		
				学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.59		
			内容がシラバス通りか	はい			

分野		科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
統合分野	在宅看護論	在宅看護論Ⅰ	1(15)	成績の結果	全員修得		成績結果より、A評価が8割以上おり、学習内容は理解できたと考える。しかしC評価も0．3%おり、理解度に差がみられている。介護保険制度等在宅看護に関連する法律・制度については、国家試験対策においても課題になることがあり、このことが理解度の差につながっていると考えた。家族看護ではジェノグラム、エコマップの作成を演習にて実施しているが、1コマでの実施となっており、十分な理解を得るには至っていないと考える。	法律・制度関連の理解をどのように深めていけるかが課題である。関係法規、社会福祉論等の講義の授業進度を確認し、関連付けた学習ができるような授業展開を考えていくことが必要である。家族看護については、授業内容量から考えると1コマでは不足であったと考える。2019年度より外部講師による講義が開始となるため、それによる成績の変化等を見ていく必要がある。
				出席率（%）	99.8 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	なし			
		在宅看護論Ⅱ	1(15)	成績の結果	全員修得		出席率に関しては、98.6%と高値ではあるが体調管理を徹底することで100%になり得ると考える。試験での成績はカリキュラム内容に沿った出題としていることもあり、内容も15時間1単位であることからA 評価を取りやすいと考える。ケアプランの作成については、介護保険や健康保険を踏まえて復習しながらの構成であるが、在宅看護論Ⅰと並行する形で授業が組まれている為、授業方略を時期を見ながら検討していく必要があった。	課題は在宅看護論Ⅰ～Ⅳまでの流れの中で、在宅看護論ⅠとⅡが同時期に開始されているため、内容が順序立てていても改めてⅡで説明をする時間を要する。2年生で集中して行うのではなく、1年後期に開始することで重複内容が少なく、授業内容が充実しカリキュラム構成が活かされると考える。評価はA評価が8割以上で、出席率も高いことから理解はできていると考えるが、今後は事例の文章を理解して問くような難易度の高い問題も必要ではないかと考える。
				出席率（%）	98.6 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		在宅看護論Ⅲ	1(30)	成績の結果	全員修得		「授業内容に興味・関心が持つことができた」「授業の内容は理解できた」が共に4.30台であることから、在宅看護技術に関する知識・技術は習得できたと考える。成績の結果もA・B合わせて90%以上であることからも知識・技術の習得ができたと考える。また「新しい知識の習得に役立った」も4.41と高得点であることから、在宅での療養生活を支える看護について考えることができた。	「講義における授業内容が提示されていた」が他の項目より低いことから、次年度に向けては自学自習に向けた授業課題や内容の提示を事前に実施する等の改善が必要である。また今年度1コマでの演習の場合、在宅看護実習室のキャパシティーを考えると効果的な演習ができたとは言えない状況もあった。次年度は演習は2コマ続きで実施し、在宅看護実習室の環境を効果的に活用することが課題である。
				出席率（%）	99.2 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.18		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.38		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.30		
					授業の内容は理解できた	4.35		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.41		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		在宅看護論Ⅳ	1(30)	成績の結果	全員修得		出席率は、98.9%と高値だが体調管理を徹底することで100%になり得ると考える。また、外部講師による接遇や余暇活動の支援（絵手紙）が各々4時間続きであることから出席に向けてしっかり導入することが必要と考える。成績結果もA評価が89.8% と高値であることは、新しい知識や技術、考え方が4.4%と理解できた実感があり成績に結び付いていると考える。興味関心がやや低いのは、授業方略に工夫が必要ではあるが、カリキュラムは大きな問題はないと考える。	在宅看護の柔軟な考え方や生活、家族を視野に入れ、対象者や家族の理解度、価値観を確認して看護展開をし、接遇や感性を磨くことの大切さを理解するというカリキュラム構成ではあったが、興味関心がやや低い。興味関心の持てるシラバスを考えることの課題が見えた。A評価が多く理解度は高いが、「授業内容は理解ができた」項目がやや低いことは、事例展開を自主的に学び実習時の看護過程に繋げる授業である説明が、より必要であったと考える。
				出席率（%）	98.9 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.46		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.46		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.28		
					授業の内容は理解できた	4.28		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.40		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		在宅看護論実習	2(90)	成績の結果	全員修得		出席率は体調不良者がいたことで100%ではなかった。オリエンテーションは、実習施設が多岐にわり、メンバーも少数で、ゼミで登校する日もある中、特にトラブルもなく行えたことは実習の円滑化に繋がったと考える。学習課題は制度や技術内容等多い中、実習で行える援助は限りがある為必要性と考えた場合、やや感じにくかったのではないか。知識や技術を身につけることや、満足度は高く現状維持で良いと考える。	実習カリキュラムの課題は、在宅看護として考えれば、訪問看護ステーション、訪問診療、保健所だけではなく、今後は地域包括支援センター、クリニックや病院の外来看護、介護老人福祉施設の看護、デイサービス、ケアマネジャーの業務（訪問介護事業所）訪問入浴等も実習に取り入れることで地域包括ケアシステム（地域包括ケア社会）をつくることの全体像がより見えてくるのではないかと考える。
				出席率（%）	99.4 %			
				実習評価	項目	平均点		
					オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.36		
					学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.23		
					この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.45		
					この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.45		
					学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.49		
				内容がシラバス通りか	はい			
看護の統合と実践		看護の統合Ⅰ	1(30)	成績の結果	全員修得		外部講師による災害時の体験談から被災地や被災者の状況、災害医療や看護の役割が理解できていた。トリアージ演習では、3年間で修得した知識・技術を活用し、小児から高齢者、妊婦等の被災者を事例設定し、発達段階を踏まえて対応する能力やチームとして組織的に行動することの必要性に気づくことができていた。国際看護においては、外部講師の現場での体験談から国外における看護の実際について興味・関心を持つことができていた。	将来、被災者を救護する立場になる者として、災害時の避難所運営が行えるよう学習内容の検討が必要である。国際看護においては、「個」の文化を考慮し安心感が与えられる対応ができる看護者として行動できることの理解を促していける学習内容の検討が必要である。また、在日外国人の患者が年々増加している現代において、国際的な視野を広げ学んでゆくことの必要性が理解できるシラバスの検討が必要である。
				出席率（%）	99.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		看護の統合Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		実習でのケースを取り上げ文章化することだけでなく問題を捉える力やテーマ、キーワードにする抽象概念化能力、文献を基に検証する力を修得できる内容に構成した。研究計画書の時点でテーマが具体的であるか、計画書での文献検索によるクリティークがあるのか、一貫性のある論文構成であるのか、プレゼンテーションの準備性と説明力、試験での知識を問う評価とした。評価に連動した授業構成と3年次生のやりぬく力で概ね要求水準を上回る結果となった。	最終的な研究の成果がケースレポートのような形式であるため、卒後に、統計を読み解く力や量的研究デザインへの理解、準実験研究など、臨床における研究に発展させる能力の修得を基礎教育でどのように培っていけるかが課題だと考える。
				出席率（%）	99.6 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	なし			
		看護の統合Ⅲ	1(30)	成績の結果	全員修得		成績の結果より、90%以上の学生がA評価となっており、「看護管理」「医療安全」の概ねの理解は得られたと分析した。左記の5項目の学生評価は平均4.8以上であり、真空管採血や静脈留置針、輸液ポンプの操作とリスク管理といった新たな知識・技術の経験型学習による効果と考えた。できる限り実習室での講義をセッティングし、座学が技術演習に即活かせる状況とした。臨床実習での経験も踏まえイメージ化が鮮明となり積み重ね学習の一助となったと考える。	看護管理については、看護の統合と実践実習内の「管理実習」での学びに繋がる内容構成としたが、看護の統合と実践実習内で学生個人が看護者として臨床で管理するという視点をもち学習できるよう外部講師と調整していく必要がある。医療安全については実習での安全ゼミを兼ねている。事故防止の観点から学生のフレームワークの定着をめざし、実習とタイアップして授業使用のフレームを臨床での分析手法として活用できるよう調整していくことが課題である。
				出席率（%）	99.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.84		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.86		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.84		
					授業の内容は理解できた	4.84		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.89		
				内容がシラバス通りか	他科目の未履修技術（導尿）に対し、シラバス内容を一部修正・実施した			
				看護技術演習が予定通りできたか	予定の技術演習はできた。また、科目外の導尿も実施した			
		看護の統合Ⅳ	1(30)	成績の結果	全員修得		成績結果より、試験の難易度が低かったと思われる。しかし、看護技術を問う問題であったため、学生の知識が高かったとも思われる。授業内容もシラバス通りであり、評価も4.5以上あり、概ね授業の内容は良かったと思われる。	看護技術の向上に向け、更なる技術の研鑽と、看護師としての態度面が学習できる内容としていきたい。試験に関しては、国家試験の内容をさらに分析し、計算問題など多くして難易度をあげていきたいと考える。
				出席率（%）	99.8 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.70		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.72		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.62		
					授業の内容は理解できた	4.66		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.75		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			

分野		科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
		看護の統合と実践実	2(90)	成績の結果	全員修得		実習評価から、実習オリエンテーションや実習要項を理解しながら実習に臨むことができていたと考える。看護の統合と実践実習については、全領域の知識や技術の経験を踏まえて、複数受け持ち、管理・リーダ、夜間実習を通して患者のニーズを捉え、優先順位やチーム医療を考えた看護実践を行うことが概ねできていたと考える。	実習は総合的に満足であったについては、「4.5」となっている。看護の統合と実践実習は、チーム看護においても課題を明確にし、達成できるとともに病棟チームにも還元できることも目指している。専門的な知識・技術を身につけることができ、さらに満足度も評価点が向上できるような実習指導を教員や臨地実習において実施できるような環境調整を行っていく必要がある。
				出席率（%）	99.8 %			
				実習評価	項目	平均点		
					オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.31		
					学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.42		
					この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.61		
					この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.63		
					学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.50		
				内容がシラバス通りか	はい			

看護第二学科

分野		科目	単位(時間数)	結果			分析	課題
基礎分野	人間と生活・社会の理解	哲学と倫理学	1(30)	成績の結果	全員修得		ものの見方・考え方を一面的にとらえることなく、より深くより広く多面的に見たらどうかを理解、経験することを学べるように毎回の講義ではテキストや新聞などからの時事問題をディベートを実践し学びを深めていった。さらに、生活者として、看護師として人間としての生き方・在り方を講義を通して考えていったが、C評価の学生もおり学生にとっては理解等にばらつきも生じたと考える	看護の対象となる人を理解するうえで必須の科目であり、2年次以降の学習につなげていく必要がある
				出席率（%）	99.6 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.07		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	3.96		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	3.93		
					授業の内容は理解できた	3.89		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.00		
				内容がシラバス通りか	はい			
		教育学	1(30)	成績の結果	全員修得		授業評価の平均は3点台であったが、成績の結果はA評価が96%であり学習評価としては講義内容が十分に理解されていると考える。	看護の対象となる人を理解するうえで必須の科目であり、2年次以降の学習につなげていく必要がある
				出席率（%）	99.6 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	3.00		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	2.90		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	3.14		
					授業の内容は理解できた	3.14		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	3.21		
				内容がシラバス通りか	はい			
		心理学	1(30)	成績の結果	全員修得		人間の心や行動を理解する際の心理的な考え方や視点について講義等により学習を進められており、出席率は100%であり、成績も概ねA評価であった。授業評価も4.5点以上であった	今後の学習の基盤となるため、学びを想起できるよう今後の学習につなげていく
				出席率（%）	100 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.81		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.78		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.67		
					授業の内容は理解できた	4.48		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.67		
				内容がシラバス通りか	はい			
		社会学	1(30)	成績の結果	全員修得		社会におこる現象に努めるとともに、その背景にある様々な要因や、それらの相互関連性をつかみ、社会現象を重層的に複合的にとらえることができることを目標とした。社会問題として取り上げられているハラスメントなどを学生の生活の中で考えるように組み立てられていた。評価も概ねA評価であり目標は達成できたと考える	今後の学習の基盤となるため、学びを想起できるよう今後の学習につなげていく
				出席率（%）	99.3 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.13		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.07		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	3.97		
					授業の内容は理解できた	3.83		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	3.73		
				内容がシラバス通りか	はい			
		人間関係論Ⅰ	1(15)	成績の結果	全員修得		ひと、もの、ことに関わる体験学習を通してこころとからだを通して自他のありように気付く力を養うことを目標に講堂にて体験学習を2日間行った。評価はAB評価に分かれており、感性の差が生んだ理解の差が考えられた	今後、看護者としての基盤となる科目でもあるため2年次以降の科目につなげていく
				出席率（%）	100 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.40		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.50		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.63		
					授業の内容は理解できた	4.43		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.60		
				内容がシラバス通りか	はい			
		人間関係論Ⅱ	1(15)	成績の結果	全員修得		グループ活動をより強化し、実習に向けてより協調性を持って行動できることを目標に行っている。開講時期が、後期実習前である。授業も実習グループで活動しており、より効果的な学びとなっていると考える。学生の授業評価でも、学びや考えの習得につながっている学生の率が高い。 評価はレポートとなっているが、全員がA評価であり、学びを学生個々が十分表現できていると考える。	開講時期が可能であれば4月など、実習開始前 とすることで、より実習でのグループ活動に効果的に学びが活用できると考える。
				出席率（%）	95.2 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	3.82		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.09		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.00		
					授業の内容は理解できた	4.27		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.27		
				内容がシラバス通りか	はい			
科学的思考の基盤		物理学	1(30)	成績の結果	全員修得		授業評価の興味関心を持つことができた、内容が理解できたの項目は3点台であったが、他は4点以上であった。成績の結果も90%がA評価であり授業目標は達成されたと考える	今後、看護者としての基盤となる科目でもあるため2年次以降の科目につなげていく
				出席率（%）	99.1 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.07		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.23		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	3.77		
					授業の内容は理解できた	3.23		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.23		
				内容がシラバス通りか	はい			
		情報科学	1(30)	成績の結果	全員修得		情報リテラシー等の情報管理に関する学習でありパソコンに扱いなど不慣れな学生もいたが、授業評価はほぼ4点台であり、成績の評価もA評価が82%となった。	今後、看護者としての基盤となる科目でもあるため2年次以降の科目につなげていく
				出席率（%）	99.3 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.48		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.52		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.66		
					授業の内容は理解できた	4.48		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.76		
				内容がシラバス通りか	はい			
		英語	1(30)	成績の結果	全員修得		授業評価は全項目4点以上であったが、成績の結果はA 評価が67%であり学習の到達度に課題が残った	英語は、今後の国際的な活躍もふまえ学習を継続し発展させるよう支援する
				出席率（%）	99.6 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.19		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.52		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.52		
					授業の内容は理解できた	4.26		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.41		
				内容がシラバス通りか	はい			
		論理学	1(30)	成績の結果	全員修得		授業評価は、授業内容の提示、講義内容は学習目標にそったものか授業内容に興味関心を持つことができたかは4点以上であったが、授業内容の理解は3点台であった。成績の結果もA評価は50%にとどまっていた。	授業で習得された知識を、他科目や実習において活用できるように発展させる。
				出席率（%）	98.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.21		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.45		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.21		
					授業の内容は理解できた	3.79		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.28		
				内容がシラバス通りか	はい			

分野		科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1(30)	成績の結果	全員修得		授業評価は、3～4の評価店であった。成績の結果は、72%がA評価であり、達成できたと考える。	准看護学校からの積み重ねによる結果と考えるが、2年次以降の疾患と看護の学習につながるよう支援する
				出席率（%）	99.6 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	3.93		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.29		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.00		
					授業の内容は理解できた	3.29		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.14		
				内容がシラバス通りか	はい			
		解剖生理学Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		解剖生理学Ⅰと同じ講師のため授業評価は実施せず。成績の結果は、解剖生理学Ⅰに比べA評価が減少しC評価が増加したことから、後期の学習課題が明らかとなった。	C評価には再試験合格者も含まれているため、知識の定着に向けて学習支援が必要である。2年次以降も学習を継続し、授業で習得された知識を、他科目や実習において活用できるように発展させる。
				出席率（%）	99.3 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
		生化学	1(30)	成績の結果	全員修得		毎回知識確認テストを行い、復習をしながらの学習であったこと、時間割構成が栄養学とセットの講義となったことで、効果的な学習となったと考える。A評価が約45%の結果からわかる。しかし、約25%の学生はC評価である。授業評価の内容理解の点が平均2点台であることからも分かる。	授業構成が次年度は生化学と栄養学とセットでの時間割とならなかったため、生化学の知識の定着に今年度より労力を要することが予想される。理解したことが知識となるために、予習復習が十分できるような働きかけが必要である。生化学は人体の構造や疾患を理解するためには欠かせない知識となる解剖生理とともに、振り返り学習を進めていく必要がある。
				出席率（%）	99.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	3.88		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.00		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	2.92		
					授業の内容は理解できた	2.65		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	3.54		
				内容がシラバス通りか	はい			
		栄養学	1(15)	成績の結果	全員修得		学生の生活や、仕事に結びつけた講義をとなっており、学生の関心度・理解度も高い授業となっている。成績もすべての学生がA評価となっており、十分の知識の習得ができている。この知識を実習や国家試験に活かしていけるように知識の定着を図っていく必要がある。	現在の内容で十分目標が達成できていると考える。 学習した内容の知識の定着を図っていく
				出席率（%）	100 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.85		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.85		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.88		
					授業の内容は理解できた	4.65		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.85		
				内容がシラバス通りか	はい			
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1(15)	成績の結果	全員修得		授業評価として、授業内容に興味関心を持ち取り組むこと4点台であったが、授業内容の理解は3.42であった。成績結果も、C評価が48.3%であり、2年次以降の科目で知識習得状況を確認し、今後の学習につなげていく必要がある。	微生物学にて修得した知識が、今後の学習につなげていくような働きかけが必要である。
				出席率（%）	98.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.38		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.44		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.28		
					授業の内容は理解できた	3.42		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.08		
				内容がシラバス通りか	はい			
		薬理学	1(30)	成績の結果	全員修得		授業評価の結果からも、学生の興味関心は高くまた理解度も高い授業であったことがわかる。しかし、A評価は1/4しかおらず、授業で理解したことが知識として十分定着していないことがうかがえる。近年国家試験においても薬理の知識は多く問われている。疾患と結び付けて薬の知識をしっかりと身に着けられるように、国家試験に向けて学習支援をしていく必要がある。	学生の興味関心は高い教科であるため、今後も薬と疾患を結び付けて学習ができるように促していく
				出席率（%）	100 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.62		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.69		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.23		
					授業の内容は理解できた	3.81		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.50		
				内容がシラバス通りか	はい			
		病理学	1(15)	成績の結果	全員修得		授業評価は、すべて4点以上、成績もA評価が70%を超えており概ね学習目標は達成できたと考える	C評価には再試験合格者も含まれているため、知識の定着に向けて学習支援が必要である
				出席率（%）	99.1 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.43		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.53		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.53		
					授業の内容は理解できた	4.03		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.47		
				内容がシラバス通りか	はい			
		疾病と治療Ⅰ	1(30)	成績の結果	全員修得		呼吸・循環・消化器系の知識を問う科目である A評価は4割おり、半数近くの学生は十分理解できているようではあるが、実習や模擬試験などで3年次も知識の強化をはかっていく必要がある。	実習や模擬試験などで3年次も知識の強化をはかっていく
				出席率（%）	99.2 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
		疾病と治療Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		骨筋系・内分泌・脳神経の知識を問う科目である A評価は8割おり、ほとんどの学生は十分理解できているようではあるが、実習や模擬試験などで3年次も知識の強化をはかっていく必要がある。	実習や模擬試験などで3年次も知識の強化をはかっていく
				出席率（%）	99.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
		リハビリテーション学	1(30)	成績の結果	全員修得		医師、セラピスト等の講義と共に、教員がリハビリテーションを受ける患者に特徴的なケアの演習を行った。講義・演習共に実践をふまえた内容であり、成績の結果は50%がA評価であった	講義と演習内容を統合し、知識が深められるようにする。実習でも学びを深められると考えられるため、今後も支援を継続していく
				出席率（%）	100 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			

分野	科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
健康支援と社会保障制度	福祉における援助	1単位(30)	成績の結果	全員修得		授業評価は、ボランティア論のみの結果であるが、全項目が4点以上であった。しかし、成績の結果はAB評価に分かれており、理解状況に差が生じたと考える	福祉における援助は選択科目であるため、今後選択したものを含めて科目評価の方法を検討していく
			出席率（%）	99 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.10		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.21		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.38		
				授業の内容は理解できた	4.17		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.21		
			内容がシラバス通りか	はい			
	保健医療福祉論	1(15)	成績の結果	全員修得		保健医療福祉行政について計画から評価まで学ぶ教科である。 約7割の学生がA評価であり、授業評価も3以上であり、一定の理解はできていると評価できる。しかし、制度は日々更新されており、新たな知識の獲得と、知識の定着を図るための国家試験対策が必要と考える。	新たな知識の獲得と、知識の定着を図るための国家試験対策を行う
			出席率（%）	98.4 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	3.76		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	3.76		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	3.20		
				授業の内容は理解できた	3.32		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	3.72		
			内容がシラバス通りか	はい			
	医療と倫理	1(15)	成績の結果	全員修得		授業中の学生の反応は良好であったが、成績は6割がC評価という結果であった。 倫理については、1年次より基礎分野や基礎看護学において基本的な内容は学んでいることから、本授業では実践への活用を目指した授業展開を心がけた。しかし、2年次であるため実習経験に乏しいこと、准看護師経験もばらつきもあることから、基本的な内容を確認しながら進めていくことが必要である。	授業評価は実施していないが今後は実施していきたい。倫理について、基本的な内容の定着を図り、看護実践への活用を目指すためには、准看護師の経験値を把握することが必要となる。基礎看護学実習Ⅰ（7月）とⅡ（1月）の間に授業があることを意識し、倫理的感受性をさらに高められる事例を授業に盛り込んでいくこ
			出席率（%）	99.7 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	看護研究と倫理は、看護の統合Ⅳでもふれるため調整し省略した。			
	障害者福祉論	1(15)	成績の結果	全員修得		障害者の環境や、福祉について学ぶ科目である 授業評価の結果も3点台後半と高評価であり、学生の関心度も高く、主体的に学習ができていることがうかがえる。 その結果全員A評価であり、効果的な学習ができていると考える。	学んだ知識を実習での看護に活かせるようにする
			出席率（%）	98.9 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	3.88		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.00		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	3.58		
				授業の内容は理解できた	3.63		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	3.96		
			内容がシラバス通りか	はい			
	公衆衛生と関係法規	1(30)	成績の結果	全員修得		講義内容は統計や法律・制度のことなど学生が苦手とする科目である。だが、授業評価においても関心を持って聞けており、理解もできていることが点数が4点以上であることからも分かる。成績もA評価の学生が7割を超え、C評価の学生がいないことからも、苦手とする科目を、効果的に学習ができる授業内容・授業方略となっていると考える。	3年次科目であり、国家試験受験に向けては 最新の情報を学習できるが、卒業後も必要となる知識のため、今後自ら知識の更新をすることができるように、情報収集の仕方や、学習方法の仕方などを伝えていく必要がある。
			出席率（%）	98.4 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.82		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.77		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.18		
				授業の内容は理解できた	4.45		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.55		
			内容がシラバス通りか	はい			

分野		科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	1単位(30)	成績の結果	全員修得		基礎看護学Ⅰでは、広い範囲の看護実践能力を培う。その為、知識というよりは学生自身が興味・関心を持って今後も学習していきたいと考えられるような授業方略を工夫した。また、テストでその知識や認識を確認したが高成績であったと考える。人間関係を発展させる基礎的能力では別途アサーティブネス指標を使用し学生が自己理解につながるよう工夫した。	・1年たってのアサーティブネス指標を取っていないため、グループワークなどで訓練したことが成果が出ているか確認までは至っていない。
				出席率（%）	99.2 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.67		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.60		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.57		
					授業の内容は理解できた	4.34		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.63		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	なし			
		基礎看護学Ⅱ	1単位(30)	成績の結果	全員修得		日常生活援助技術のなかにも最新のエビデンスを取り入れて、看護の質を向上できるよう演習内容を工夫した。	演習項目ではモデル人形の老朽化があった。そのため、陰部洗浄に適応する教材が不足し、授業方略に困難を要した。教材の確認・修理など教材の管理を徹底していく
				出席率（%）	99.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		基礎看護学Ⅲ	1単位(30)	成績の結果	全員修得		検査・治療における看護者の役割を考えられる様講義を行った。例年、静脈血採血や注射法に関しては、シミュレーターを活用した講義を行っている。学内でも講義以外で自己演習できる内容ではないため、講義での機会を逃さないよう伝えていった。出席率は99.5%であった。また、学生自身が卒業時の到達度を考慮できるようテキスト等を活用し説明を行った。	例年、静脈血採血や注射法に関しては、シミュレーターを活用した講義を行っている。学習者の安全は守られるが卒後不慣れな医療行為を本物の患者に実施することにならぬよう2年次の技術演習や卒後教育に繋げていく。
				出席率（%）	99.5 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		基礎看護学Ⅳ	1単位(30)	成績の結果	全員修得		フィジカルアセスメントの導入では環境調整や患者、看護師の準備など安全に正確に情報を得ることを学んだ。またフィジカルアセスメントの必要性を理解できるよう事例を基に講義、演習を繰り返した。さらに解剖生理学の知識がベースになることを意識できるよう講義を行っていった。しかし、基本的知識を問う終講試験ではB評価7名、C評価4名であり解剖学の理解を深めていく必要がある。	成績結果では、B評価7名、C評価が4名であった。フィジカルアセスメントの基本的知識は解剖生理学が基本になっているため、講義は終了しても継続して学習をすすめて行く。
				出席率（%）	99.3 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		基礎看護学Ⅴ	1単位(30)	成績の結果	全員修得		基礎看護学Ⅴでは、主に看護過程の展開について基本的な考え方と展開方法について講義やグループワークを行っている。試験結果は全員がA評価となり、看護過程の展開についての基盤は築けたと考える。	基礎看護学Ⅴでは、看護過程の基盤となる考え方や、基本的なルールなどが中心であった。そのため、より専門的な知識や科学的に分析する能力を、今後の専門分野Ⅱの科目内で支援していくことが必要と考える。
				出席率（%）	99 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		基礎看護学Ⅵ	1単位(30)	成績の結果	全員修得		技術演習では、講義後規定回数を設け演習を行えるように導入した。評価は、2回の技術試験を通して学生の技術力を確認していった。日常生活援助に関してはモデル人形を使っての演習による技術習得を促した。准看護学科で学んだ内容ではあるが「新たな知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った」の項目が4.62であった。	2年次には、臨床実践に近い形で知識と技術を統合する「統合分野」で活用できる技術力が身についているのかを技術試験で確認をしていく。
				出席率（%）	99.1 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.48		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.59		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.62		
					授業の内容は理解できた	4.41		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.62		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		基礎看護学Ⅶ	1単位(15)	成績の結果	全員修得		看護技術とは何かについて学生自身が考えられるよう看護師としてのマナー（ナースの品格）も含め指導した。感染防止やコミュニケーションなど看護の基本を学び、終講試験も全員がA評価であった。	医療におけるコミュニケーション技術や感染防止に関しては、基本的な知識であるため学んだことを深められるよう次年度に繋げていく。
				出席率（%）	99.5 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		リハビリテーション看護	1単位(30)	成績の結果	全員修得		リハビリテーション看護においては、センターからの講師による講義とセンター見学にて学習を進めた。3人の講師との試験を実施したが、全員がA評価であった。	リハビリテーション看護への興味関心が高まるよう講義内容を組み立てているため、今後の学習・実習につなげていく
				出席率（%）	99.6 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		基礎看護学Ⅰ実習	1単位(45)	成績の結果	全員修得		オリエンテーションの評価が低値であった。学生が実習をイメージできるようなオリエンテーションを臨地と共同してく。初めての実習で看護過程の展開が目的ではあるが学内での講義から計画的に学習をすすめていった。「学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった」が4.75であり、学生は基礎看護学Ⅱ実習に向けての学習課題も見いだせていた。	オリエンテーション項目が3.35に関しては、学生に確認をしたところ特に低値となる理由は聞き出せなかった。学内のオリエンテーション内容の見直しや臨地でのオリエンテーション内容を確認していく。
				出席率（%）	100 %			
				実習評価	項目	平均点		
					オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	3.35		
					学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.75		
					この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.54		
					この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.31		
					学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.69		
				内容がシラバス通りか	はい			

分野		科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
		基礎看護学Ⅱ実習	1単位(45)	成績の結果	全員修得		すべての項目が4.50以上の評価であった。出席率も100%であった。実習期間が6日間であり他の実習と比較すると短期間ではあるが学生の実習に取り組む姿勢を今後も維持できるよう指導していく。看護技術の実施を目標とした実習であるが学生は、専門的知識・技術を学んでいた。	この実習では、施設（神奈川リハビリテーション病院・大和市立病院）の特徴から学生の受け持ち患者の健康の段階に大きな違いがあり学生が実施できる技術項目も異なっていた。基礎看護学Ⅱ実習で点滴作成や経管栄養等の実施が3年次の領域別実習で経験できるよう学生の技術実施一覧を活用していく。
				出席率 （%）	100 %			
				実習評価	項目	平均点		
					オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.64		
					学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.58		
					この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.68		
					この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.52		
					学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.60		
				内容がシラバス通りか	はい			

分野		科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学Ⅰ	1(30)	成績の結果	全員修得		成人看護学Ⅰは、成人の基礎となるものを学ぶ内容である。 授業評価の結果から、授業の内容の理解については、糖尿病や内分泌疾患などの看護を考えるに当たり、解剖生理学や栄養学、疾病と治療などの科目が終了しない中での学習であったため、90分という時間の中では理解までつながりにくかったのではないかと考える	成人看護学Ⅰの理解は、成人看護学Ⅱ・Ⅲ・実習の患者理解に大きくかかわってくる。授業の内容の理解が4.07と低いため、成人看護学Ⅱ・Ⅲの講義や実習中に講義の内容と関連付け、理解につなげることが必要だと考える。
				出席率（%）	99.1 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.43		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.53		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.23		
					授業の内容は理解できた	4.07		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.27		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		成人看護学Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		成人看護学Ⅱは循環器・呼吸器・消化器などを4時間で学習するため、学習量も多くなる科目である。今年度は講義内で看護を考える時間を増やし、テストの内容を検査項目と内容の説明など記入する項目を増やしたところ、様々な検査が混乱していることが分かった。 シラバスの変更内容については、初講時に修正したシラバスを学生に提示することで、混乱なく進めることができた。演習は予定通りに実施できた。	疾患・治療・検査とその看護と学習することが多く、混乱しやすい状況にあったと考える。そのため、必要な知識は考えてもらうだけでなく、繰り返し伝えていくことが必要だった。また、同じ疾患に対し複数の検査があるときなどは、特徴を強調して伝えていく必要がある。今回講義が理解につながっていないことが分かったため、今後の実習や国家試験対策において知識の整理ができるように支援をしていく
				出席率（%）	99.3 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	いいえ　造血器の看護を成人看護学ⅢからⅡへ変更			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		成人看護学Ⅲ	1(30)	成績の結果	全員修得		成人看護学Ⅲは、外部講師・専任教員が4人関わる科目である。成人看護学Ⅱに比べると専門の看護師や医師に4コマ分の時間かけ講義をしていただけるため、理解につながっていると考える。シラバスの内容については、初講時に変更したシラバスを提示し、説明したため、混乱はなかった。 成人看護学Ⅲは技術演習はない。しかし、輸液の確認方法や副作用の観察を教室内でロールプレイングをしながら学んだ。	緩和ケアなど国家試験に出題されやすい項目である。血液疾患は実習で出会う機会が少ないため、国家試験対策でしっかりと理解につなげていく。次年度は乳がんの看護だけでなく子宮がん患者の看護も実施する予定である。また、成人看護学の流れとして成人看護学ⅡとⅢが交換となったため、講師が混乱しないように確認していく。
				出席率（%）	100 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	いいえ　造血器の看護を成人看護学ⅢからⅡへ変更　がん看護を追加			
				看護技術演習が予定通りできたか	なし			
		成人看護学実習	2(90)	成績の結果	全員修得		病棟実習前に地域実習を行うことで、入院前後の患者の看護を理解することができ、受け持ち患者の理解や退院指導につなげることができた。しかし、ルーブリック評価の結果から、周手術期の患者の生体反応と疾患による身体変化を関連付けることが困難であったことがわかっており、その困難感が専門技術の獲得まで至らなかったと考える。	成人看護学Ⅱの周手術期の看護で侵襲による生体反応を学習しているが、実際の患者につなげることができない学生が多かった。今年度成人看護学Ⅱの看護展開において、患者の全体像がよりイメージ化できるように関連図も記載したりしているため、来年度実習に行った際、侵襲も踏まえた全体像が理解できるように指導を継続していく必要がある。
				出席率（%）	99.6 %			
				実習評価	項目	平均点		
					オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.59		
					学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.59		
					この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.41		
					この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.27		
					学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.55		
				内容がシラバス通りか	はい			
	老年看護学	老年看護学Ⅰ	1(30)	成績の結果	全員修得		老年看護学Ⅰでは、老いとは何か、加齢に伴う変化とそのことが生活に与えることは何かを考え学ぶ。講義の中で加齢に伴う変化を、並行科目である解剖生理学と合わせて行った。また、現代社会における高齢者を取り巻く環境や政策等を主体的に調べながらつながりを深められるようにグループワークを行っていった。また高齢者の生きてきた背景やQOL、ストレングスな視点を持つことの必要性を考えられるように支援した。	老年看護学Ⅰでは講義、グループワークを通して老いとその変化などを学んでいく。老いと加齢による変化が対象の生活にどのように影響を与えるのかを考えることが必要となる。次年度の老年看護学Ⅱ、Ⅲ、そして実習に向け生活に与える影響を具体的にイメージし言語化していく能力を培っていく。
				出席率（%）	99.5 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		老年看護学Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		老年看護学Ⅱでは、老年期にある対象の特徴を理解し、生活を支えるための看護を考えることができるように講義している。また外部講師より加齢による影響の大きい、眼科系疾患と腎・泌尿器疾患について講義を行っている。シラバスに沿った援助を行っているが、廃用症候群予防は様々なアプローチがあるためチームによって演習の内容が異なる傾向があった。	老年看護学Ⅱの演習においては、廃用症候群予防のための援助を行っているが、その中で口腔ケアや排泄援助等発展させながら学生が主体的に援助を思考し演習が行えるように講義を工夫していく。老年Ⅱを学ぶ中で、眼科系疾患、腎泌尿器疾患と健康障害を抱える対象の治療と看護が、専門基礎分野の初期から講義が開始されるため学生が疾患と看護を結び付けられるように学習方法等に配慮が必要と考える。
				出席率（%）	99.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		老年看護学Ⅲ	1(30)	成績の結果	全員修得		老年看護学Ⅲでは、健康障害を抱える対象の看護を中心に講義を行っている。また複数疾患を抱える高齢者の看護を退院後の生活も見据え考えることを目標に、看護過程の展開を実施している。授業評価の結果では、学生の達成度が高く見えるが、学習準備に関して低い傾向もみられ、事前学習を促し、主体的な学習ができるような工夫が必要と考える。	老年看護学Ⅲでは技術演習がなく、演習は看護過程の展開のみである。学生が主体的かつ実践的に学習ができるように、健康障害を抱える高齢者への看護を講義だけでなく、実践的に学べる授業形態を取り入れていく必要がある。
				出席率（%）	98.5 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.64		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.80		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.68		
					授業の内容は理解できた	4.64		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.76		
				内容がシラバス通りか	看護過程の展開事例の疾患が基礎看護学と重複するため変更した			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		老年看護学実習	2(90)	成績の結果	全員修得		老年看護学実習では、対象について総合的に捉える能力、対象の持つ強みに目を向けながらQOLを高めていくために必要な看護を考え、実践していく。評価内容は全体的に平均が4.5を上回り、学生自身は学びを実感できたことが伺える。しかし、回復期の病棟での実践であることから急性期から早期に退院していくなど健康段階に応じた看護実践に課題がある。	次年度より、実習施設が二か所に分かれるため実習で担当する対象者の健康段階が学生毎に異なることが予測される。実習施設で個々の学生の学びに差が生じないように学びの共有ができるよう配慮し、現代社会の特徴を踏まえながら看護を実践してく対応力の強化を図っていく。
				出席率（%）	99.7 %			
				実習評価	項目	平均点		
					オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.68		
					学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.64		
					この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.50		
					この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.55		
					学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.64		
				内容がシラバス通りか	はい			
	小児看護学	小児看護学Ⅰ	1(15)	成績の結果	全員修得		法律・制度、社会情勢や、小児看護を行う上での倫理などを学ぶ教科であり、近年子ども子育て新制度や虐待防止法の改正の機運など変革期にある。教科書は2015年に改訂されているが、最新データーはニュースの内容などをもとに最新の情報のとる必要性を伝えた。成績はA～Cほぼ同様におり、理解度にはばらつきを感じる。更なる改定があることも予想されるため、小児Ⅱ・Ⅲにおいて、復習を行いながら最新データーを伝えていく。	最新の情報や法改定などをいつどのように更新していくか。国家試験受験までの学生の知識をどのように更新していくかが課題。看護倫理や子どもの権利などに関しては、小児Ⅲ、実習で学びを想起させ、知識の活用と看護師としての自己のあり方を考える機会としていく。
				出席率（%）	100 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			

分野	科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
	小児看護学Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		小児の発達段階や育児知識と疾患を学ぶ科目である。アセスメントガイドや学習の貯金箱などを用いて自主的な学習を行えるように工夫をしているが、その結果C評価はおらず、半数以上がAを獲得している。子どもの成長発達は最も必要な知識であるため、その知識がある程度身についているものと評価できる。ただ、知識の定着ができるためには繰り返し、知識の活用が必要となる。	実習において発達段階を意識した対象理解と、それに応じた看護の実際を考える機会を多く作る必要がある。さらに学んだ知識を授業や実習で活用し、学んだ知識の定着を図る。 アセスメントガイドをより一層活用した実習とし、学習したことが看護実践に生かせる体験ができるようにしていく必要がある。
			出席率（%）	99 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	はい			
	小児看護学Ⅲ	1(30)	成績の結果	全員修得		健康段階別の看護と看護技術の科目であり、演習や看護の具体的な計画立案を取り入れ、より実践に役立つ授業内容を意識した。その中で、学生は授業に関心を寄せ、より新しい知識を習得できている。また、授業内容に興味関心を持てているため、主体的な学習につながる一助となっていると考える。A評価が6割を超えており教授方法は一定の効果があると考える。ただ、C評価の苦手意識のある学生がいるため、実習において、より具体的な知識の活用をしていく。	実習中に学習した内容を想起しながら実習を行う 授業の中でも、状況設定問題を意識した授業構成とし、看護実践能力と国家試験対策になるようなより効果的な授業となるように検討していく。
			出席率（%）	98.2 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.92		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.92		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.83		
				授業の内容は理解できた	4.71		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.83		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	はい			
	小児看護学実習	2(90)	成績の結果	全員修得		病棟実習は6日間、外来実習は2日間、保育所は3日間と短期間実習が重なる。しかしそれぞれで学ぶべきものがあり、学生が短期間でも学べるように具体的なオリエンテーションを行い、実習中も学習することを具体的に指導を行った。結果学ぶ内容も明確となり、知識技術とも比較的に学べていると考える。また満足度も高く、実習内容としては効果的なものとなっていることが、評価のAが約8割である事からも分かる。	アセスメントガイドのより効果的な活用を行う。基礎的知識の実戦での活用方法を習得できるように実習中に知識の想起を行い、看護計画や実践に活かせるように支援を行う。 実習上での学びを国家試験の知識とできるよう、実習中のゼミ時間を効果的に活用し、知識を深めることができるようにしてい
			出席率（%）	97.8 %			
			実習評価	項目	平均点		
				オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.86		
				学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.76		
				この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.76		
				この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.81		
				学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.76		
			内容がシラバス通りか	はい			
母性看護学	母性看護学Ⅰ	1(15)	成績の結果	全員修得		授業評価は実施せず。講義、グループワーク等にて母性看護学の概論の学習を進めた。成績の結果は80%がA評価であり学びは得られたと考える	母性看護学Ⅱ以降は妊娠・分娩・産褥期の看護が中心となるため、母性看護の対象が女性のライフサイクル全ての期にあることを想起できるようにしていく
			出席率（%）	98.7 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	はい			
	母性看護学Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		授業評価の結果からみると、非常に学びも多く、主体的な学びができていると考える。しかし、成績には十分につながっていないように感じる。この科目は、疾患と正常な妊娠の経過について学習する。そのため、母性看護においては基礎的知識となる。実習に行くまでに十分学習内容を想起できるように、看護過程での知識の活用や、母性Ⅲでの学んだ知識の活用などを行うことで、学んだ知識の理解を深めるかかわりが必要。	母性Ⅲ看護過程において、学んだと知識をより定着させ、深められるようにしていく
			出席率（%）	99.5 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.23		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.46		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.42		
				授業の内容は理解できた	4.19		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.46		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	なし			
	母性看護学Ⅲ	1(30)	成績の結果	全員修得		授業評価の結果からみると、非常に学びも多く、主体的な学びができていることがうかがえる。成績もA評価の結果も6割であり、C評価も8人と少ないため、十分理解できていると考える。ここでの知識は、実習で活用すべき知識であるため、実習までに引き続き学習を深め、実習での学びに活かしていく必要がある。	実習までに引き続き学習を深め、実習での学びに活かしていく
			出席率（%）	100 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.04		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.08		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.04		
				授業の内容は理解できた	3.92		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.32		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	はい			
	母性看護学実習	2(90)	成績の結果	全員修得		母性看護学実習は指導者3名、教員2名で担当し、さらに今年度から助産師の教員の担当ではなくなったが、実習評価に差は見られなかった。満足度も平均4.82と高い結果となり、臨床と連携を取りながら、学びを深めることができた。実習評価の項目「教員と指導者の指導の一貫性があった」の評価が4.05と他の項目と比較して低かった。担当が変わったことや、指導の意図が伝わらなかった為と考える。	教員と指導者の指導の一貫性について、担当をなるべく変わらないように、また、学生に意図を伝えながら実習を進める課題が残った。
			出席率（%）	99.6 %			
			実習評価	項目	平均点		
				オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.64		
				学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.64		
				この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.64		
				この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.73		
				学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.82		
			内容がシラバス通りか	はい			
精神看護学	精神看護学Ⅰ	1(15)	成績の結果	全員修得		本科目では、精神看護学の意義、心の発達と働きに関する要因及び性の概念と発達について学ぶ。この内容は、准看護学校での講義や、心理学や小児看護学と重複する。しかし、『授業の内容の理解』の評価は比較的他の項目より低く、成績も他科目に比べてA評価者が少ない。概念的な内容が多く、理解しにくいのか。技術演習では、プロセスレコードが1コマ分になっていることや基礎実習Ⅰで記入できるようにというねらいから、演習が記入のみとなった。	概論の内容は、概論の内容として理解するのではなく、そのことが臨床で起きている現象に繋がっていることを理解してもらう必要がある。 プロセスレコードの演習では、現在分析にあるような理由から記入のみとなっているが、カンファレンスで話し合うこともとても重要である。しかし、話し合いが不十分であっては学習効果がマイナスになることも考えられる。精神看護学Ⅲの講義につなげていく。
			出席率（%）	100 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	4.52		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.62		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	4.55		
				授業の内容は理解できた	4.34		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.45		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	プロセスレコードのカンファレンス演習まで至らず、記入のみの演習となった。			
	精神看護学Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		本科目は、精神障害を持つ人の理解を知る内容になっている。半分を精神科医からの疾患と治療の理解の講義、精神専門看護師の講義が4時間、内部教員の歴史と制度の内容が10時間で構成されている。試験の割合も時間数に比例しているため、疾患と治療に関する試験内容が高得点であったため、全体の評価としても高かった。精神看護学Ⅲの看護過程や実習で疾患の理解は重要であるため、確実な理解が求められる。	本科目は、疾患や症状、治療等の知識を獲得する内容がほとんどを占めている。そのため、試験内容も暗記で対応できるものであったのか、全員がA評価となった。しかし、精神看護で重要視している「疾患だけではなく、人を看る」という視点の学習のウェイトが低いと考える。本科目の知識が人の理解に繋がるように演習や実習で活かしていく。
			出席率（%）	99.3 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	はい			

分野	科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
	精神看護学Ⅲ	1(30)	成績の結果	全員修得		本科目では、精神看護の実践を学ぶ内容が中心となっている。臨床の看護師が11時間を担当し、看護の実際と伝えている。また、内部教員は、プロセスレコードの演習や看護過程の講義を行い、実習や臨床で活用できる内容としている。3年次での実習の際、本科目の資料を持参してもらったり、振り返りを促したりして、講義と実習（実践）をつなげている。	看護過程やプロセスレコードの演習において、実践に繋がる学びを目標にしているが、その際の事例がよりリアルに想像できるようにしていくことが実習や臨床での患者理解に繋がると考える。しかし、実際に精神障害をもつ人とのかかわりが3年次の実習のみになっているのが現状である。
			出席率（%）	99.5 %			
			授業評価	項目	平均点		
				講義における授業内容が提示されていた	なし		
				講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
				授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
				授業の内容は理解できた	なし		
				新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
			内容がシラバス通りか	はい			
			看護技術演習が予定通りできたか	はい			
	精神看護学実習	2(30)	成績の結果	全員修得		本科目は、病院実習、地域実習を通じ、2年次までの学習を活かし精神障害にある人への理解と対応の実践を学ぶ内容になっている。学生全員が精神障害のある患者を受け持ち、看護実践を行えている。すべての評価項目が高値であることからも、実習目標を達成できている。また、知識と技術、コミュニケーションの獲得の高評価は2年次までの学習を活かすことができている。	2年次までの講義や演習の内容を想起、活用しながら、実際の精神障害のある人への理解を深めていく。また、他者の理解をするためには、まず自分自身を知ることも意識していかなければいけない。プロセスレコードの活用で、自分自身を知り、患者理解やグループメンバー、指導者、教員等の関わりに活かせるように支援していく。
			出席率（%）	100 %			
			実習評価	項目	平均点		
				オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.92		
				学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.79		
				この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.79		
				この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.79		
				学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.88		
			内容がシラバス通りか	はい			

分野		科目	単位（時間数）	結果			分析	課題
統合分野	在宅看護論	在宅看護論Ⅰ	1(30)	成績の結果	全員修得		在宅看護論Ⅰは在宅看護の目的・意義・役割が理解できるよう、時事問題やニュースを取り上げるとともにDVD等の視聴覚教材を活用した。地域包括ケアシステムが推進される社会に対応できる看護を考え実践できるよう講義を進めた。講義内容に関する評価ではおおむね4.5を超えており成績もB評価以上であったため目標は達成できたと考える。	カリキュラム改正もふまえ、さらなる地域における生活者への支援を考えられるよう検討していく
				出席率（%）	99.5 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	4.73		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	4.73		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	4.54		
					授業の内容は理解できた	4.50		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	4.65		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできた	なし			
		在宅看護論Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		在宅におけるケアマネジメントとして、多職種連携として、訪問診療所の医師による講義や介護プラン作成を体験する等を行った。さらに在宅における接遇や在宅にて多いスキントラブルへの対応として皮膚疾患についての講義を外部講師により行った。30時間中、外部講師が4名、18時間にて内容が多岐に渡ったためか成績結果としてはB評価が50%であった。	在宅看護論Ⅱは内容が多岐にわたるため、講義内容の関連を持たせ進めていくよう検討していく
				出席率（%）	99.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできた	なし			
		在宅看護論Ⅲ	1(30)	成績の結果	全員修得		在宅における生活援助技術を学ぶとともに、訪問看護の事例における看護過程の展開、ロールプレイを行った。生活援助技術は実習で体験できる内容と、厚生労働省より出されてる技術水準を照らし合わせた内容とした。さらに、今年度は在宅における呼吸管理として人工呼吸器をデモ機を借用し講義演習を行った。ロールプレイにおいては、実習を想定し、初回訪問時の接遇等を考える機会とした。成績は課題達成状況と筆記試験の合算であり全員が修得できた。	演習やロールプレイ等は在宅実習室で行うことで、在宅のイメージ化を図りながら進めることができた。また学生数も25名であったため、学習環境としては適していたと考える。次年度は30名となるため、環境調整が課題となる
				出席率（%）	98.9 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできた	はい			
		在宅看護論実習	2(90)	成績の結果	全員修得		在宅で療養生活を送る人とその家族がその人らしく日常生活ができるための保健医療福祉の連携と実際を学ぶを目的に介護老人保健施設、地域包括支援センター、訪問診療所、訪問看護ステーションにて実習を行った。達成状況としては実習評価は全項目が4.5以上、成績もほぼA評価であった。	実習施設が短期間で複数にわたるため一つ一つを深めることに困難な学生や、また経験から思考が深まらない学生もいた。各実習施設で個々の学びが統合できるよう支援し、これからの地域包括の現代社会の特徴を踏まえながら看護を実践してく対応力の強化を図っていく。
				出席率（%）	99.6 %			
				実習評価	項目	平均点		
					オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	4.88		
					学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	4.75		
					この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	4.63		
					この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	4.63		
					学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	4.88		
				内容がシラバス通りか	はい			
	看護の統合と実践	看護の統合Ⅰ	1(30)	成績の結果	全員修得		看護の統合Ⅰは災害看護と国際看護の視点から看護を考え、臨床に近い実践を学ぶ狙いがある。しかし、学生にとってイメージの付きにくい分野でもあり、学生に身近に感じてもらえるような工夫が必要である。また、授業の中で必ず1人1回は体験している救急救命の気道の確保、人工呼吸、閉鎖式心マッサージ、AEDの操作など技術到達度評価で到達人数が約20%と低かった。実習では見学の機会がない場合もあるので授業で到達度を確認していく。	・実習で外国籍の患者さんや災害が発生した場合にはどうするかなど、身近なものとして考える機会を設ける必要がある。 ・救急救命の気道の確保、人工呼吸、閉鎖式心マッサージ、AEDの操作など授業後、技術到達度評価の機会を設け、自信がない場合には繰り返し練習をできる場の提供が必要である。
				出席率（%）	100 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできた	はい			
		看護の統合Ⅱ	1(30)	成績の結果	全員修得		看護の統合Ⅱは侵襲度が高く、卒後早期に実践する機会が多い看護技術を、危険を予測し安全・安楽な技術が提供できるように学ぶ科目である。9項目の技術を演習を中心に学び、知識・技術試験を行い確実な技術を身に着けている。今年度は輸液ポンプ・シリンジポンプを実施し、経口与薬を追加している。そのため、シラバスの内容と異なってしまったが初講時に修正したものを提示し、以後は予定通りに演習することができた。	点滴作成試験において、物品の準備と破損の有無の確認に試験時間の半分を使用してしまったため、最後まで作成しきらなかった学生が多かった。試験において確認したい技術のポイントはどこなのかもう一度見直し、試験方法の検討をしていく必要がある。看護の統合Ⅱの後に基礎看護学実習Ⅱがあり、技術提供する機会となるため、学生が自信をもって看護技術の提供ができるように支援を続けていく。
				出席率（%）	99.7 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	演習項目を変更した			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		看護の統合Ⅲ	1(30)	成績の結果	全員修得		本科目は、【医療安全】【多重課題】【看護管理】の3つの項目で構成されている。この項目は、看護の統合と実践実習の目的・目標ともつながっている。 医療安全では、カリキュラム通りに講義ができたが、使用テキストは、臨床での事例からの対策が多く、一般的な医療安全の考え方などの内容が少ない。多重課題では、ロールプレイ演習を行っているが、実習で求められる多重課題というより、優先順位の判断に焦点があてられている。	医療安全は、参考テキストを活用してカリキュラムに沿った講義内容としているが、予習・復習できるように参考テキストでの予習箇所を提示していく必要がある。多重課題は、実習では多重課題の状況でグループメンバーや指導者、教員等との調整力を学習しているが、演習ではその場面での判断も考える実習になっている。事前の情報から何を誰にいつ調整したらよいかを考えられるような事例提示していく必要がある。
				出席率（%）	99.4 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできたか	はい			
		看護の統合Ⅳ	1(30)	成績の結果	全員修得		看護の統合Ⅳは看護の知識・技術を統合し自身の看護観を整理するとともに、幅広く看護について考えられる基礎を学ぶ内容とした。倫理的な看護実践も踏まえ、事例研究をまとめられ、看護師が看護研究に取り組み意義についてもその内容から自身の言葉で表現できたと考える。しかし、研究疑問から研究に取り組むことができていない。また、レポートをまとめるところは基礎を踏んでいるが量的なデーターを取り扱うについては教授できていない。	研究疑問から看護研究を計画できていない課題がある。研究疑問を突き詰め、先行文献を吟味し研究の意義を自ら考えられるような工夫が必要である。 量的データの基礎的な知識の教授が課題となる。
				出席率（%）	99.2 %			
				授業評価	項目	平均点		
					講義における授業内容が提示されていた	なし		
					講義の内容は、学習目標に沿った内容であった	なし		
					授業内容に興味・関心を持つことができた	なし		
					授業の内容は理解できた	なし		
					新しい知識や技術、あるいは考え方の習得に役立った	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			
				看護技術演習が予定通りできた	なし			
		看護の統合と実践実習	2(90)	成績の結果	全員修得		本科目は、【管理実習】【夜間実習】【複数受け持ち】の3つの大きな項目に分かれている。管理実習と複数受け持ちは、統合Ⅲの講義、演習でその概要や実践を学んでいる。夜間実習に関しては、その実際を講義で詳細に学ぶことはカリキュラムになく、自己学習に頼っている状況である。また、統合Ⅰでは災害看護や国際看護を学んでいるが、統合実習のカリキュラムには含まれていない。	夜勤の役割や仕組み、法的根拠などを講義で学んでから、実習で学んだほうがより理解が深めると考える。また、災害看護や国際看護の領域は、実習のカリキュラムに追加し実践していく必要がある。
				出席率（%）	100 %			
				実習評価	項目	平均点		
					オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うのに役立った	なし		
					学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	なし		
					この実習の領域で学べる専門的知識を身につけることができた	なし		
					この実習の領域で学べる専門的技術を身につけることができた	なし		
					学生自身の取り組みも含め、この実習は総合的に満足であった	なし		
				内容がシラバス通りか	はい			

（7）講師会議

講師及び臨地実習施設の看護管理者に対して、学生の学習状況や国家試験の動向を伝え学生理解を図る。意見交換を行い、より質の高い教育を目指すことを目的に開催している。

・ 開催日　2019年3月22日

・ テーマおよび出席者

学科	テーマ	講師出席者
看護第一学科	意見交換テーマ（学年別） 1年：興味・関心をもって学習に主体的に取り組むための教育 2年：学生の学ぶ力に合わせて専門職業人としての基礎づくりをする教育 3年：専門職業人として臨床で判断ができる看護師を育てるには	基礎科目　5　人 専門基礎科目　4　人 専門科目　16　人 統合　2　人
看護第二学科	教育の充実を目指して －看護職として自律した専門職業人を育成するために－	基礎科目　2　人 専門基礎科目　4　人 専門科目　7　人 統合　4　人

（8）研修の受け入れ状況

研修日	研修機関	受入人数	内容
2018.8.27 ～ 2018.9.07	環太平洋大学　次世代教育学部教育経営学科 通信教育課程看護教員養成コース 看護教育専攻	1人	看護教育実習
2018.6.25 ～ 2018.11.30	神奈川県立保健福祉大学　実践教育センター 教員・教育担当者養成課程	6人	看護教育実習

（9）夏期臨地実習指導者研修会

学生教育の向上のために臨地実習施設と学校との連携を図ることを目的に、臨地実習施設の実習指導者と当校の専任教員を対象に毎年研修会を開催している。

区分	テーマ	目的・内容	実施日数	参加人数
第34回目 2018.7.23	「アンガーマネジメントを実習指導へ活かそう」	目的：学生教育向上のために臨地実習施設と学校との連携を図る 内容：講演／グループワーク 基調講演 講師名：横浜市立大学医学部看護学科 田辺　有理子　先生	1日	48人

6. 教員の研修・研究活動等

（1）学会・紙上発表

ア　学会発表

題　　目	発　表　者 共同研究者	年月日	学会名
学校運営、教育活動における教職員のインシデント・アクシデントの概要と特徴	五十嵐一美	2018. 08. 24	第30回日本看護学校協議会学会
教員が看護学生の授業評価表を授業改善につなげる工夫	島田真由美 持木　香代	2018. 08. 24	第30回日本看護学校協議会学会
高齢者との地域交流会を通しての看護学生の学び	小泉由香里 菊池　寛子	2018. 08. 24	第30回日本看護学校協議会学会
複合的な技術試験を導入したことによる臨地実習での効果 ―2年次成人看護学実習に焦点を当てて―	渡辺　　彩 安藤　直子 市原真由美	2019. 03. 09	第20回神奈川県看護教育フォーラム
パートナー方式を臨地実習で導入した効果と課題 ―学生のアンケート調査から―	安藤　直子 田原　裕子 渡辺　　彩	2019. 03. 09	第20回神奈川県看護教育フォーラム
在宅看護論実習における訪問診療所での学び(第2報)	持木　香代	2019. 03. 09	第20回神奈川県看護教育フォーラム

イ　紙上発表

題　　目	研　究　者	発行年月	雑誌名
授業において看護学生が考えたり感じている内容とそこから見出された看護教員の行動特性	櫛谷　由佳	2018. 7	神奈川県総合リハビリテーション事業団 厚木看護専門学校紀要第８号
A看護専門学校生の学校生活における自己肯定意識に関する実態調査 －第１報－	市原真由美	2018. 7	神奈川県総合リハビリテーション事業団 厚木看護専門学校紀要第８号
在宅看護論実習における訪問診療での学び	持木　香代	2018. 7	神奈川県総合リハビリテーション事業団 厚木看護専門学校紀要第８号
高齢者理解をするための老年看護学授業での取り組み －看護学生と地域高齢者の交流による学生の学び－	小泉由香里 菊池　寛子	2018. 7	神奈川県総合リハビリテーション事業団 厚木看護専門学校紀要第８号

ウ　倫理委員会にける審査結果

2018年度における研究の審査結果は次のとおりである。

開　催　日	申　請　数	審査結果
第１回　　2018年6月13日	4題	(1)　承認　　9件 (2)　再提出　9件 (3)　不承認　2件
第２回　　2018年11月8日	7題	

（2）座長・講師等

題　　目	講　師　名	年月日	主　催
厚木市開発審査会　委員	武藤　和恵	2018. 4.01 ～ 2020. 3.31	厚木市
厚木市健康保険運営協議会　委員	武藤　和恵	2017. 9.01 ～ 2019. 8.31	厚木市
厚木市立病院運営審議会　委員	武藤　和恵	2018. 4.01 ～ 2020. 3.31	厚木市立病院
厚木市立病院臨床研修管理委員会　委員	武藤　和恵	2018. 4.01 ～ 2019. 3.31	厚木市立病院
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会 理事	武藤　和恵	2018. 4.01 ～ 2019. 3.31	神奈川県看護師等養成機関連絡協議会
厚木保健師・助産師・看護師・准看護師会　役員	武藤　和恵	2018. 4.01 ～ 2019. 3.31	厚木保健師・助産師・看護師・准看護師会
環太平洋大学 通信教育課程　領域専門別看護論演習（非常勤講師）	五十嵐一美	2018. 4.01 ～ 2019. 3.31	環太平洋大学
厚木佐藤病院　看護研究指導	島田真由美	2018. 7.11 2018. 9.05 2018.10.31 2018.12.12	厚木佐藤病院
伊勢原協同病院「かながわ看護フェスティバル」 看護一日体験	安藤　直子	2018.07.22	伊勢原協同病院
神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 教員・教育担当者養成課程　看護コース 看護教育方法演習　ロールプレイング	持木　香代	2018.08.07 2018.08.21 2018.09.04 2018.09.20 2018.09.27	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター
総合的な学習の時間「看護の仕事について」	安藤　直子	2018.10.04	神奈川県立秦野曽屋高等学校
「中堅看護職のためのフィジカルイグザミネーション」 ー事例を通して症状・兆候からのアセスメントー	藤原　則子 三浦　夏枝 前田　幹香	2018.10.27	県央地区・厚木地区看護部長会
「保健師・助産師・看護師」実習指導者講習会 「2年課程教育制度と実習指導」	西川　裕美	2018.11.08	東海大学健康科学部看護学科
道徳授業　「命の尊さ　より良い生き方について」	赤堀　貴子	2019.02.27	厚木市立玉川中学校

（3）学外研修参加

ア．学外研修

名称	開催地	参加年月日	参加者
学研ナーシングセミナー 看護師国家試験分析レポート受験指導対策セミナー	東京都 千代田区	2018.04.07	島田真由美 持木　香代 西川　裕美 池田　紀子 小泉由香里
WRAP集中クラス	神奈川県 横浜市	2018.04.14 2018.04.15	櫛谷　由佳
東京大学大学院人文社会系研究科臨床死生学・倫理学研究会・ケアの倫理学	東京都 文京区	2018.04.18	中野志津江
一般社団法人日本プラウドケア教育協会 山内豊明先生のフィジカルアセスメント研修会	東京都 文京区	2018.04.21 2018.04.22 2018.05.19 2018.05.20 2018.06.16 2018.06.17	赤堀　貴子
日総研 看護学実習におけるプロセスレコードの活用・評価と学生指導の方法	大阪府 大阪市	2018.04.28	田原　裕子
平成30年度　新人看護教員研修 ファシリテーター研修	神奈川県 藤沢市	2018.04.28	中野志津江 小泉由香里 菊池　寛子
精神看護ベーシック オレム・アンダーウッドモデルの実践活用	東京都	2018.05.12 2018.06.09 2018.07.14 2018.09.08 2018.10.13 2018.11.10 2018.12.08 2019.02.09 2019.03.09	櫛谷　由佳
東京大学大学院人文社会系研究科臨床死生学・倫理学研究会・臨床倫理コンサルテーションの活動と役割	東京都 文京区	2018.05.09	中野志津江
教育ITソリューションEXPO　2018	東京都 江東区	2018.05.16	安藤　直子 櫛谷　由佳 前田　幹香
教育ITソリューションEXPO　2018	東京都 江東区	2018.05.18	島田真由美
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会 2018年度総会・講演会 「安全に実習するためのワクチン接種のすすめ方」	神奈川県 横浜市	2018.05.22	武藤　和恵
一般社団法人日本看護学校協議会 平成30年度 学校長会	東京都 千代田区	2018.05.30	武藤　和恵
東京大学大学院人文社会系研究科臨床死生学・倫理学研究会・認知症高齢者におけるフレイルの評価と意義	東京都 文京区	2018.05.30	中野志津江
平成30年度　新人看護教員研修 第1～3回目　ファシリテーター役中堅看護教員	神奈川県 横浜市	2018.06.02 2018.11.10 2019.02.16	小泉由香里 菊池　寛子
平成30年度　新人看護教員研修	神奈川県 横浜市	2018.06.02 2018.11.10 2019.02.16	関　　真弓 三浦　夏枝 杉崎　真紀
NEW　EDUCATION　EXPO　2018 公共ICTフォーラム2018 第4回読書通帳サミット	東京都 江東区	2018.06.08	西川　裕美 市原真由美
医学同人社 ハート先生の心電図教室　初級編	東京都 板橋区	2018.06.12	高井　咲恵
全国看護師交流会	神奈川県 横浜市	2018.06.13	中野志津江

名称	開催地	参加年月日	参加者
認定看護管理者教育課程サードレベル「公開授業」 保健医療福祉政策論　看護制度・政策	神奈川県 横浜市	2018.06.15	島田真由美
医療安全倫理・モラル研修会2018 （医療安全管理研修会）	東京都 文京区	2018.06.17	田原　裕子 櫛谷　由佳 渡辺　　彩
厚木看護師会 第1回研修会「褥瘡ケアを繋ぐ」 Ⅰ病院編　病院での褥瘡ケア ～当院における褥瘡ケアと地域への継続～ Ⅱ在宅編　地域での褥瘡ケアの実際と課題	神奈川県 厚木市	2018.06.20	武藤　和恵 五十嵐一美 藤原　則子 中野志津江 赤堀　貴子 小泉由香里 持木　香代 小島　拓也
神奈川県看護部長会総会・講演会 「平成30年度診療報酬・介護報酬同時改定を受けて」 ～看護関連のポイント～	神奈川県 横浜市	2018.06.21	武藤　和恵
日本看護協会 平成30年度　災害支援ナースの第一歩 ～災害看護の基本的知識～	兵庫県 神戸市	2018.06.22 2018.06.23	高井　咲恵
看護学生の学習を促す教え方　授業方法入門	東京都 新宿区	2018.06.23	田原　裕子 市原真由美 櫛谷　由佳
平成30年度西部支部教員研修会 倫理観に基づく看護実践 ～教育実践につながる教員の倫理観を育てる～	神奈川県 小田原市	2018.06.30	大河原亮一 渡邉小枝子 豊原　敦子 三浦　夏枝 杉崎　真紀 藤原　則子 市原真由美 櫛谷　由佳 小泉由香里 高井　咲恵 中野志津江 関　　真弓 島田真由美 前田　幹香 小島　拓也
高次脳機能障害セミナー 小児編	神奈川県 相模原市	2018.07.14	西川　裕美
看護を実践するための思考過程を引き出す教員の力 ～基礎看護学の講義と実習～	神奈川県 横浜市	2018.07.21	中野志津江
平成30年度東部支部　第1回教員研修会 看護を実践するための思考過程を引き出す教員の力 ～基礎看護学の講義と実習～	神奈川県 川崎市	2018.07.21	安藤　直子 渡邉小枝子 豊原　敦子 三浦　夏枝 藤原　則子 小泉由香里 島田真由美 持木　香代 西川　裕美 今田美和子 渡辺　　彩
照林社　看護教員実力アップセミナー 学生が伸びる！夢中になる！授業・実習のつくりかた	東京都 千代田区	2018.07.22	菊池　寛子
日本ＡＣＬＳ協会 ＢＬＳプロバイダーコース	神奈川県 藤沢市	2018.07.29	高井　咲恵
（株）進研アド 2018年度新入生徹底分析！基礎学力向上で退学者を減少させる	東京都	2018.07.29	藤原　則子 渡邉小枝子 赤堀　貴子
平成30年度　なでしこ公開講座 講義と臨地実習をつなぐシミュレーション教育	神奈川県 平塚市	2018.07.30	田原　裕子 豊原　敦子 市原真由美 渡辺　　彩 中野志津江
日総研　看護学生・看護師への看護過程・看護診断のわかりやすい教え方	東京都 千代田区	2018.08.05	藤原　則子

名称	開催地	参加年月日	参加者
看護教員継続研修　研修A-1	神奈川県 横浜市	2018. 08. 09 2018. 08. 10	市原真由美 渡邉　雅英
神奈川県立保健福祉大学　実践教育センター 平成30年度　看護教員継続研修 「チーム力向上～ファシリテーション～」	神奈川県 横浜市	2018. 08. 13 2018. 08. 20 2018. 08. 24	高井　咲恵
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会 第3回教員研修 看護実践の場における学びを支える教育実践 「体験学習をふまえた学生の学び」	神奈川県 横浜市	2018. 08. 22	渡邉　雅英
平成30年度南部支部教員研修会 体験型学習を踏まえた学生の学び	神奈川県 横浜市	2018. 08. 25	渡邉　雅英 今田美和子
日本看護学教育学会 看護実践能力をはぐくむディープ・ラーニング	神奈川県 横浜市	2018. 08. 28 2018. 08. 29	池田　紀子 赤堀　貴子 渡邉小枝子
看護師基礎教育を考える会 日本看護協会	埼玉県 さいたま市	2018. 09. 06	島田真由美
山中豊先生 　フィジカルアセスメント集中講座	東京 新宿区	2018. 09. 08	中野志津江
メディカ出版　臨床で活用できる知識とは何か	東京都 港区	2018. 09. 09	菊池　寛子
神奈川県看護部長会研修会 　「看護の管理者（リーダー）が考えること」 　「神奈川県地域医療構想を読む」	神奈川県 横浜市	2018. 09. 20	武藤　和恵
産業保健フォーラム 今なぜ「健康経営」か	神奈川県 横浜市	2018. 09. 28	五十嵐一美 島田真由美
メディカ出版　高齢者看護実践	東京都 港区	2018. 09. 30	小泉由香里 菊池　寛子
卒業論文をサポートしよう	神奈川県 横須賀市	2018. 10. 06	中野志津江 島田真由美 持木　香代 今田美和子 小島　拓也
東京大学大学院人文社会系研究科臨床死生学・倫理学研究会・精神科臨床におけるニューロエンハンスメント	東京都 文京区	2018. 10. 17	中野志津江
専門認定看護師研修（排尿障害・家族看護・リハビリテーション看護）	神奈川県 厚木市	2018. 10. 20	中野志津江 杉崎　真紀 持木　香代
桜美林大学・老年学総合研究所　桜美林大学大学院老年学研究科2018年度秋季公開講座 「我が事」「丸ごと」地域共生社会の実現：地域包括ケアシステムの深化に向けて	東京都 渋谷区	2018. 10. 27	小島　拓也
看護教員継続研修A-2 看護専任教員スキルアップ研修	神奈川県 横浜市	2018. 09. 15 2018. 09. 29 2018. 10. 12 2018. 12. 22	中野志津江
教育実践を研究にするSoTLと研究デザインワークシートのつくり方　医学書院　　大阪大学　佐藤浩章	東京都 文京区	2018. 11. 01	島田真由美
東京大学大学院人文社会系研究科臨床死生学・倫理学研究会・認知症高齢者と看護職者のケアリングについて	東京都 文京区	2018. 11. 04	中野志津江
国際シンポジウム 東アジアの死生学ー超高齢社会と死にゆくことー	東京都 文京区	2018. 11. 04	中野志津江
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会 2019年度 機関長会議 「レジリエンスを鍛える～折れない心を育てよう～」	神奈川県 横浜市	2018. 11. 09	武藤　和恵 島田真由美 持木　香代

名称	開催地	参加年月日	参加者
看護教育アップセミナー 実践力を高める在宅看護論の教授ポイント 講義の構築と演習・実習の工夫	東京都 港区	2018.11.11	中野志津江 豊原　敦子 持木　香代
厚木看護師会 第2回研修会 「認知症サポーター養成講座」 ～地域で見守る応援者～	神奈川県 厚木市	2018.11.21	五十嵐一美 島田真由美 杉崎　真紀 藤原　則子 小泉由香里 赤堀　貴子 中野志津江 小島　拓也 持木　香代 武藤　和恵
平成30年度　JMA 海老名総合病院 看護部主催ワークショップ	神奈川県 海老名市	2018.11.24	安藤 直子 小泉由香里
一般社団法人日本看護学校協議会 シュミレーション教育を充実させるファシリテーターの役割	東京都 千代田区	2018.12.19	西川　裕美 藤原　則子
看護教員・臨床指導者の継続教育に関する研究報告・意見交換会	東京都 文京区	2019.01.05	持木　香代 今田美和子
一般社団法人日本看護学校協議会 平成30年度 副学校長・教務主任会 「教育課程開発」	東京都 千代田区	2018.12.18	五十嵐一美 田原　裕子 持木　香代
NPO在宅ケアを支える診療所 市民全国ネットワーク2019団塊・君たち・未来	東京都 文京区	2019.01.12	中野志津江
私たちが何故どうして尿もれ セミナー　神奈川県総合医療会館	神奈川県 横浜市	2018.02.10	中野志津江
平成30年度神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会と神奈川県養成機関連絡協議会との連絡会議 「パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）について　～新たな仕組みの中で看護師と学生を育てる～」	神奈川県 横浜市	2019.02.15	武藤　和恵 安藤　直子
「職業実践専門課程」の第三者評価フォーラム2019	東京都 千代田区	2019.02.19	武藤　和恵

イ．学会等

名称	開催地	参加年月日	参加者
日本看護倫理学会　第11回年次大会	東京都 渋谷区	2018.05.26 2018.05.27	武藤　和恵 高井　咲恵
第49回　日本看護学会　精神看護　学術集会	徳島県 徳島市	2018.07.19 2018.07.20	渡邉　雅英
一般社団法人　日本災害看護学会　第20回年次大会	兵庫県 神戸市	2018.08.10 2018.08.11	高井　咲恵 前田　幹香 持木　香代
第49回　日本看護学会　看護教育　学術集会	広島県 広島市	2018.08.16 2018.08.17	櫛谷　由佳 安藤　直子 市原真由美 赤堀　貴子
一般社団法人　日本看護学校協議会　第30回学会	鹿児島県 鹿児島市	2018.08.23 2018.08.24	五十嵐一美 島田真由美 小泉由香里 安藤　直子
一般社団法人　日本看護管理学会　第22回学術集会	兵庫県 神戸市	2018.08.24 2018.08.25	武藤　和恵 大河原亮一
一般社団法人　日本看護学教育学会　第28回学術集会	神奈川県 横浜市	2018.08.28 2018.08.29	武藤　和恵 池田　紀子 赤堀　貴子
NPO法人　日本リハビリテーション看護学会　第30回学術集会	富山県 富山市	2018.11.23 2018.11.24	五十嵐一美 田原　裕子
一般社団法人　日本在宅看護学会　第8回学術集会	静岡県 静岡市	2018.12.08 2018.12.09	中野志津江

（4）学会・団体の入会状況

ア　学校

学　会　・　団　体　名
一般社団法人　日本看護学校協議会
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会
神奈川県専修学校各種学校協会

イ　個人

学　会　・　団　体　名	入会者数
公益社団法人　日本看護協会	26 人
ＮＰＯ法人　日本リハビリテーション看護学会	23 人
厚木保健師・助産師・看護師・准看護師会	19 人
一般社団法人 日本看護研究学会	1 人
一般社団法人　日本看護学教育学会	2 人
一般社団法人　日本災害看護学会	1 人
一般社団法人　日本看護管理学会	1 人
公益社団法人 日本助産師会	1 人
公益社団法人 神奈川県助産師会	1 人
全米ダンスセラピスト協会	1 人
一般社団法人　日本アートセラピー協会	1 人
一般社団法人　ＳＳＴ普及協会	1 人
日本看護図書館協会	1 人

（5）投稿

書名・題名	氏名	出版社	頁	発行年月
成人看護学 リハビリテーション看護論 第 3 版 言語障害（失語症）がある人の看護	持木　香代	ヌーヴェルヒロカワ	P273～276	2018 年 12 月

（6）受賞・学位等取得状況

ア　受賞

氏名	表彰日	表彰名称	表彰者
藤原　則子	2018 年 10 月	永年勤続 (20 年)	社会福祉法人　全国社会福祉事業団協議会
小泉由香里	2018 年 11 月	永年勤続 (5 年)	一般社団法人 神奈川県専修学校各種学校協会　会長
大河原亮一	2018 年 11 月	永年勤続 (10 年)	一般社団法人 神奈川県専修学校各種学校協会　会長
三浦　英子	2018 年 11 月	永年勤続 (25 年)	一般社団法人 神奈川県専修学校各種学校協会　会長
安藤　直子	2019 年 3 月	業績賞 (個人)	社会福祉法人 神奈川県総合リハビリーション事業団　理事長
前田　幹香	2019 年 3 月	永年勤続 (30 年)	社会福祉法人 神奈川県総合リハビリーション事業団　理事長
三浦　英子	2019 年 3 月	神奈川県 看護教員表彰	神奈川県健康医療局　局長 神奈川県看護師等養成機関連絡協議会　会長

イ　認定資格等

氏名	資格名称	認定日	認定者
武藤　和恵	認定看護管理者	平成 29 年　7 月	公益社団法人　日本看護協会
武藤　和恵	医療安全管理者	平成 26 年 10 月	公益社団法人　神奈川県看護協会
武藤　和恵	介護支援専門員	平成 11 年　7 月	神奈川県知事
武藤　和恵	自衛消防業務新規講習	平成 26 年　7 月	一般財団法人 日本消防設備安全センター
五十嵐一美	認定アートセラピスト	平成 19 年　6 月	一般社団法人 日本アートセラピー協会
五十嵐一美	ダンスセラピスト	平成 19 年　8 月	全米ダンスセラピー協会
五十嵐一美	ファーストエイドナース	平成 25 年　8 月	一般社団法人 日本救急看護学会
五十嵐一美	医療安全管理者	平成 24 年　8 月	公益社団法人　日本看護協会
五十嵐一美	医療的ケア教員	平成 29 年　1 月	厚生労働省
大河原亮一	第一種衛生管理者	平成 24 年　4 月	厚生労働省東京労働局長
持木　香代	介護支援専門員	平成 22 年　5 月	神奈川県知事
杉崎　真紀	ファーストエイドナース	平成 25 年　8 月	一般社団法人 日本救急看護学会
三浦　英子	新生児蘇生法「専門」コース （Aコース）修了認定	平成 22 月　2 月	一般社団法人 日本周産期・新生児医学会理事長
西川　裕美	新生児蘇生法「専門」コース 修了認定	平成 24 年　3 月	一般社団法人 日本周産期・新生児医学会理事長
西川　裕美	PALS プロバイダー	平成 24 年　5 月	American Heart Association
中野志津江	介護教員	平成 18 年 10 月	社会福祉法人全国社会福祉協議会 中央福祉学院
中野志津江	主任指導者	平成 16 年 10 月	社団法人日本介護福祉士養成施設協会
中野志津江	医療的ケア教員	平成 24 年　4 月	株式会社メディカルプラネット

氏名	資格名称	認定日	認定者
中野志津江	介護福祉士国家試験実地試験委員	平成 23 年　3 月 平成 27 年　3 月	公益社団法人社会福祉振興・試験センター
中野志津江	看護のキネステティクス®ベーシックコース修了認定	平成 22 年　1 月	株式会社 CARE　PROGRESS　JAPAN
中野志津江	健康福祉運動指導者	平成 21 年　2 月	放送大学　石弘光
中野志津江	車いすレクダンスインストラクター	平成 27 年 11 月	特定非営利活動法人車いすレクダンス普及会　理事長　黒木実馬
中野志津江	介護予防指導士	平成 24 年　5 月	特定非営利活動法人　日本介護予防協会
中野志津江	看護師・精神保健福祉士のためのストレスチエック実施者養成研修修了	平成 27 年　9 月	一般社団法人日本精神科産業医協会

（7）職員研修

職員研修は、本校における職員の自己啓発の促進と広い視野で知見を得ることで職員個々の能力向上を図り、学校経営・運営の企画・実践につなげることを目的として実施した。

2018 年 7 月 26 日（木）

テーマ	内容	講師	参加人数
学校教職員として求められる接遇	学生指導や対応、渉外場面において、学校教職員として求められる接遇について学ぶ	竹内　智子氏	30 人

2019 年 3 月 18 日（月）

テーマ	内容	講師	参加人数
教職員向け防犯教室	職員一人一人が万が一の危機管理に対する意識を高め、学生または自分自身を守るための護身術を習得する	厚木警察署　生活安全課 西村　幸伸氏	30 人

2019 年 3 月 25 日（月）

テーマ	内容	講師	参加人数
看護学生の成長と共に「私」が成長すること	カウンセリングの経過から学生の特性を踏まえ、教員として学生が安心できる環境を整え、学びを支援する方法を学ぶ	学生カウンセラー 小田嶋　朋子氏	29 人

7．学生に関する状況

（1）学生の在籍状況

（人）

区分		年度当初在籍	年度内異動 男子（ ）内数		年度末在籍	進級・卒業	留年
学科	学年（定員）	男子（ ）内数	編入学	退学	男子（ ）内数	男子（ ）内数	男子（ ）内数
看護第一学科	1年 (80)	84 (15)	0 (0)	1 (0)	83 (15)	83 (15)	0 (0)
	2年 (80)	90 (7)	0 (0)	1 (0)	89 (7)	88 (6)	0 (0)
	3年 (80)	74 (10)	0 (0)	0 (0)	74 (10)	72 (16)	2 (2)
	計 (240)	248 (32)	0 (0)	2 (0)	246 (32)	243 (37)	2 (2)
看護第二学科	1年 (40)	30 (2)	0 (0)	0 (0)	30 (2)	30 (2)	0 (0)
	2年 (40)	26 (4)	0 (0)	1 (0)	25 (4)	25 (4)	0 (0)
	3年 (40)	23 (4)	0 (0)	0 (0)	23 (4)	22 (4)	1 (0)
	計 (120)	79 (10)	0 (0)	1 (0)	78 (10)	77 (10)	1 (0)
合計	1年 (120)	114 (17)	0 (0)	1 (0)	113 (17)	113 (17)	0 (0)
	2年 (120)	116 (11)	0 (0)	2 (0)	114 (11)	113 (10)	0 (0)
	3年 (120)	97 (14)	0 (0)	0 (0)	97 (14)	94 (20)	3 (2)
	計 (360)	327 (42)	0 (0)	3 (0)	324 (42)	320 (47)	3 (2)

（2）入学試験の状況

看護第一学科

区分	応募者数	受験者数	合格者数	補欠者数	入学者数	補欠（内数）	応募倍率	合格率	入学率
推薦（指定校）	60人	60人	60人	0人	60人	（ 0人 ）	1.00	100.0%	100.0%
推薦（公募）	9人	9人	1人	0人	1人	（ 0人 ）	9.00	11.1%	100.0%
特定大卒者	2人	2人	0人	0人	0人	（ 0人 ）	—	0.0%	—
社会人（第1回）	41人	41人	8人	0人	7人	（ 0人 ）	5.13	19.5%	87.5%
社会人（第2回）	21人	20人	2人	0人	1人	（ 0人 ）	10.50	10.0%	50.0%
一般（第1回）	43人	35人	16人	0人	12人	（ 0人 ）	2.69	45.7%	75.0%
一般（第2回）	14人	10人	4人	0人	4人	（ 0人 ）	3.50	40.0%	100.0%
合計	190人	177人	91人	0人	85人	（ 0人 ）	2.09	51.4%	93.4%

※看護第二学科は、2019年度入学生より募集停止

（3）入学生の出身地

看護第一学科		
都道府県名	男	女
北海道	0	1
秋田県	0	1
埼玉県	1	0
東京都	0	3
神奈川県	11	68
(小計)	(12)	(73)
合計	85	

（4）看護師国家試験合格状況

区分		平成２６年度 第１０４回	平成２７年度 第１０５回	平成２８年度 第１０６回	平成２９年度 第１０７回	２０１８年度 第１０８回
看護第一学科	回生	３１回生	３２回生	３３回生	３４回生	３５回生
	卒業者数	79	80	86	78	72
	合格者数	78	80	82	77	70
	一科合格率	98.7%	100.0%	95.3%	98.7%	97.2%
看護第二学科	回生	４１回生	４２回生	４３回生	４４回生	４５回生
	卒業者数	23	19	35	43	22
	合格者数	23	19	33	43	22
	一科合格率	100.0%	100.0%	94.3%	100.0%	100.0%
合計	卒業者数	102	99	121	121	94
	合格者数	101	99	115	120	92
	一科合格率	99.0%	100.0%	95.0%	99.2%	97.9%

（5）就職・進路状況

ア　看護第一学科

	卒業者数	就職者数	進学者数	その他
看護第一学科 （　）は男子で内数	７２人 （８人）	６６人 （８人）	４人 （０人）	２人 （０人）

就職者の地域別状況

地域区分	地域別	県内県外別計	
県央地域	55	県内	66
相模原地域	3		
横浜地域	3		
川崎地域	1		
横須賀・三浦地域	0		
湘南東部・西部地域	4		
県西地域	0		
県外	0	県外	0

イ　看護第二学科

	卒業者数	就職者数	進学者数	その他
看護第二学科 （　）は男子で内数	２２人 （４人）	２２人 （４人）	０人 （０人）	０人 （０人）

就職者の地域別状況

地域区分	地域別	県内県外別計	
県央地域	4	県内	22
相模原地域	0		
横浜地域	4		
川崎地域	3		
横須賀・三浦地域	1		
湘南東部・西部地域	8		
県西地域	2		
県外	0	県外	0

（6）奨学金の貸付状況

（人）

区分		神奈川県総合リハビリテーション事業団の学資金	神奈川県の学資金		学生支援機構の奨学金					合計
学科	学年		一般	特例	貸与一種	貸与二種	貸与併用	給付	貸与・給付併用	
看護第一学科	1年	8	3	0	4	7	2	1	1	26
	2年	22	6	0	8	8	2	0	0	46
	3年	28	6	1	0	4	1	0	0	40
	計	58	15	1	12	19	5	1	1	110
看護第二学科	1年	0	10	0	2	4	0	0	1	17
	2年	4	5	1	0	8	1	0	0	19
	3年	1	7	0	1	8	0	0	0	17
	計	5	22	1	3	20	1	0	1	52
合計	1年	8	13	0	6	11	2	1	2	40
	2年	26	11	1	8	16	3	0	0	65
	3年	29	13	1	1	12	1	0	0	57
	計	63	37	2	15	39	6	1	2	162

（7）スクールカウンセリングの利用状況

利用回数	利用延べ人数
53回	103人

８．学生確保活動

（１）推薦指定校の推移

看護第一学科　　（校）

区分	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)
県内	49	41	38	37	38
県外	7	6	4	4	4
合計	56	47	42	41	42

看護第二学科　　（校）

区分	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)
県内	4	3	3	1
県外	1	0	1	0
合計	5	3	4	1

※　2018年度は2019年度入学生より募集停止のため、推薦指定は無し。

（２）学校見学会（オープンキャンパス）実施状況

（人）

区分	27年度	28年度	29年度	2018年度										計
				学校見学会					オープンキャンパス					
				6/23	7/6	8/31	9/26	3/20	7/24	7/28	8/3	8/18	12/1	
看護第一学科推薦指定校	243	242	231	41	17	24	14	3	30	台風接近のため中止	65	88	12	294
看護第二学科推薦指定校	15	10	20	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—
県内公立高校	30	21	28	4	3	4	2	0	4		5	5	4	31
県内私立高校	15	12	12	2	3	5	0	0	0		2	2	3	17
県外高校	17	17	12	0	0	3	0	0	0		0	4	5	12
准看護師養成校	9	6	6	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0
その他（社会人等）	240	279	220	38	11	29	18	7	28		29	60	39	259
合計	569	587	529	85	34	65	34	10	62	0	101	159	63	613

※　学校見学会は、校舎見学を主眼として、教員による校舎の詳しい案内に加えて、面接における所作や願書の記入方法の説明も行っている。

※　オープンキャンパスは、学校生活や入学案内の説明に加えて、学校生活や学校の雰囲気を直接実感してもらえるように、授業が体験できる模擬授業、在校生による校舎の案内、在校生との意見交換・質疑応答コーナーも設けている。

※　上記以外に2018年5月12日に実施した文化祭において、相談コーナーを設け進路相談（14人が利用）に対応した。

（3） 一日看護体験

公益社団法人日本看護協会が推奨する「看護の日」のメインテーマである「看護の心をみんなの心に」を念頭におき、将来の進路選択として体験から看護を理解してもらうことを目的とし、高校生等を対象に２０１８年５月１２日に文化祭と同日実施した。

参加校・参加人数の内訳

区分		申込人数	参加人数
推薦指定校	県央地域	29人	27人
	相模原地域	15人	14人
	湘南地域	13人	12人
	県西地域	12人	9人
	横浜地域	5人	4人
	川崎地域	2人	2人
	県外	11人	11人
	小計	87人 (27校)	79人 (26校)
推薦指定校以外	県央地域	0人	0人
	相模原地域	3人	2人
	湘南地域	3人	3人
	県西地域	0人	0人
	横浜地域	1人	1人
	川崎地域	1人	1人
	県外	1人	1人
	小計	9人 (7校)	8人 (6校)
一般	社会人	5人	4人
	大学生等	1人	1人
	中学生	4人	4人
	小学生等	0人	0人
	小計	10人	9人
合計		106人 (34校)	96人 (32校)

（4）進学説明会出席状況

地　域	対象高校・施設	説明者	出席日	主催業種分類
県央地域（12）	厚木北高校	渡邉雅（二科）	2018年4月17日	進路相談企画
		三浦夏（一科）	2018年12月24日	進路相談企画
	厚木清南高校	藤原（一科）	2018年7月20日	進路相談企画
		高井（一科）	2018年6月8日	進路相談企画
		安藤（一科）	2018年9月12日	進路相談企画
	厚木商業高校	池田（一科）	2019年3月20日	進路相談企画
	厚木西高校	安藤（一科）	2018年6月12日	進路相談企画
		三浦夏（一科）	2019年3月18日	進路相談企画
	厚木東高校	安藤（一科）	2018年6月5日	進路相談企画
		藤原（一科）	2018年11月13日	進路相談企画
	愛川高校	豊原（一科）	2018年4月27日	進路相談企画
	綾瀬西高校	安藤（一科）	2018年5月11日	進路相談企画
		渡邉雅（二科）	2018年6月8日	進路相談企画
		渡辺彩（一科）	2019年1月11日	進路相談企画
	相模向陽館高校	安藤（一科）	2018年12月7日	進路相談企画
	座間総合高校	安藤（一科）	2018年5月18日	進路相談企画
		小泉（一科）	2018年6月29日	進路相談企画
	中央農業高校	渡邉雅（二科）	2018年12月11日	進路相談企画
	生蘭高等専修学校	渡辺彩（一科）	2019年1月28日	進路相談企画
	大和東高校	三浦夏（一科）	2018年10月26日	進路相談企画
		三浦夏（一科）	2019年3月11日	進路相談企画
相模原地域（7）	神奈川総合産業高校	渡辺彩（一科）	2018年5月10日	進路相談企画
	私立光明学園相模原高校	藤原（一科）	2019年2月27日	進路相談企画
	相模原田名高校	安藤（一科）	2018年5月7日	進路相談企画
		安藤（一科）	2018年12月10日	進路相談企画
		今田（二科）	2019年1月28日	進路相談企画
	相模原青陵高校	渡邉雅（二科）	2018年6月18日	進路相談企画
	相模原総合高校	渡辺彩（一科）	2018年4月13日	進路相談企画
	城山高校	菊池（一科）	2018年5月28日	進路相談企画
		安藤（一科）	2018年6月18日	進路相談企画
	橋本高校	小泉（一科）	2018年11月22日	進路相談企画
湘南地域（5）	伊勢原高校	安藤（一科）	2019年3月15日	進路相談企画
		安藤（一科）	2019年3月18日	進路相談企画
	秦野総合高校	安藤（一科）	2018年11月13日	進路相談企画
	秦野曽屋高校	安藤（一科）	2018年10月4日	秦野曽屋高校
	平塚湘風高校	田原（一科）	2018年5月15日	進路相談企画
		安藤（一科）	2019年1月15日	進路相談企画
	平塚商業高校	安藤（一科）	2019年1月28日	進路相談企画
横浜地域（2）	希望ヶ丘高校（定時制）	安藤（一科）	2019年1月23日	進路相談企画
	横浜明朋高校	池田（一科）	2018年7月6日	進路相談企画
県西地域（5）	足柄高校	菊池（一科）	2018年6月7日	進路相談企画
		安藤（一科）	2019年3月19日	進路相談企画
	大井高校	安藤（一科）	2018年5月21日	進路相談企画
	山北高校	安藤（一科）	2019年1月24日	進路相談企画
	旭ヶ丘高校	安藤（一科）	2018年11月22日	進路相談企画
	西湘高校	安藤（一科）	2018年9月13日	進路相談企画
県外（2）	私立八王子実践高校	藤原（一科）	2019年3月10日	進路相談企画
	町田総合高校	渡辺彩（一科）	2018年12月11日	進路相談企画
その他（2）	東京アカデミー	安藤（一科）	2018年7月8日	予備校
	大根中学校	安藤（一科）	2019年2月5日	大根中学校
合計（延50日の出席）				

９．年間の行事

４月　５日　始業式、離着任式
　　６日　入学式
　　２５日　定期健康診断
　　２６日　実習病院合同就職説明会
５月１２日　たまご祭　一日看護体験
６月１４日　厚看卒新人看護師のつどい
７月　７日　保護者説明会（看護第一学科　二年生、三年生）
　　２３日　夏期臨地実習指導者研修会
７月２６日　職員研修会
９月　６日　防災訓練
　　１５日　看護第一学科（社会人第１回）入学試験
１０月　６日　保護者説明会（看護第一学科　一年生）
　　１３日　看護第一学科（推薦・公募推薦・特定大卒者）入学試験
　　２６日　看護学生のつどい
１１月１５日　看護を考える日・特別講演
１２月　６日　事例研究発表会（看護第二学科）
　　１１日～１２日　看護研究発表会（看護第一学科）
１月１６日　看護第一学科（一般第１回・社会人第２回）一次試験
　　２４日　看護第一学科（一般第１回・社会人第２回）二次試験
２月１７日　第１０８回看護師国家試験
３月　１日　卒業式
　　７日　創立 50 周年記念式典・祝賀会
　　１１日　看護第一学科（一般第２回）入学試験
　　１３日　終業式
　　２２日　講師会議

１０．年間行事等の実施状況

（１）文化祭（第25回たまご祭）

ア．テーマ

『創立50周年の感謝を届けよう　～魅せろ！厚看魂～』

イ．開催日時

2018年5月12日（土）10：00～15：00

ウ．来場者数

613人

エ．テーマに込めた思い・文化祭目標

2018年4月創立50周年を迎え、看護第二学科の募集停止に伴い2つの学科全ての学年が揃う最後の年となり、これまで本校を支えて下さった卒業生、教職員、地域の方々へ感謝の気持ちを込めました。2つの学科ともに「厚看魂」という熱い心で一致団結し、厚木看護専門学校の学生が日々学んでいる看護の知識・技術・心を地域の皆様に知っていただく機会としました。

（２）看護を考える日・特別講演

ア．目的

講演・グループワークを通して看護の役割を認識し、責任ある行動について考えられる。

イ．テーマ

「人間性の向上と信念をもって発言する力」

～医療事故に関与した職員の立場や心情～

ウ．開催日時および場所

2018年11月15日（木）13：00～16：00

当校　講堂および教室

エ．特別講演・講師

医療の良心を守る市民の会

代表　永井　裕之　氏

（３）看護学生のつどい（西部支部）

ア．テーマ

「生きる　二十歳の私　～2020年東京パラリンピックに向かって～」

イ．開催日時および場所

2018年10月26日（金）13：00～15：00

小田原市民会館

ウ．講演会・講師

筑波大学体育専門学群３年　パラカヌー日本代表

瀬立　モニカ　氏

（４）実習病院合同就職説明会

ア．参加学生数

看護第一学科 152 名、看護第二学科　39 名　計 191 名

イ．参加施設数

実習施設８病院、神奈川県立病院機構

ウ．開催日時および場所

2018 年４月 26 日（木）13：00～17：00

当校講堂にて

エ．内容

・参加施設ごとのプレゼンテーション（施設概要・教育体制等）

・施設ブースに分かれ、就職および奨学金等の進路相談の実施

（５）看護第一学科指定校推薦に関する説明会

ア．参加対象

看護第一学科の推薦指定校の進路担当の教諭

イ．参加数

32 校

ウ．開催日時および場所

2018 年６月８日（金）15：00～16：00

当校　２階　第１教室

エ．説明内容

・入学案内および指定校推薦入学に関する説明

・意見交換（グループでのディスカッション）

・１年生による看護技術演習を見学、推薦指定校出身者との触れ合い

（６）厚看卒新人看護師のつどい

ア．目的

前年度に当校を卒業し、就職した新人看護師がつどい、同研修を受けることによりリフレッシュし、仕事に取り組む活力を見出す。

イ．目標

（ア）同期生との交流を通して、看護師として働いている自己の洞察を深めることができる

（イ）現状の共有ができる

（ウ）明日への活力を見出すことができる

ウ．対象

2018年度　看護第一学科、看護第二学科　卒業生98名

エ．開催日

2018年6月14日（木）14：00～17：00

オ．内容

テーマに沿ったグループワーク

（グループ毎にファシリテーター教員による支援の実施）

テーマ1　　看護師になった自分：3ヶ月経った「今」を考える

テーマ2　　看護師としての自分：明日からに向けて

（7）保護者説明会

厚木看護専門学校の学生の学習継続を支援するために、保護者との連携を図ることを目的に実施した。

ア．目標

（ア）教育課程の理解を得る

（イ）看護専門学校における学生支援の理解を得る

イ．対象

当校看護第一学科学生の保護者

ウ．開催時期および参加者数

1年次生：2018年10月6日（土）　1年次生保護者　36人

2年次生：2018年 7月7日（土）　2年次生保護者　26人

3年次生：2018年 7月7日（土）　3年次生保護者　23人

（8）地域高齢者との交流（自治会敬老会への参加）

「老年期にある人の地域での活動や役割について知る」という目標で、老年看護学Ⅰ実習の一環として地域の自治会敬老会へ参加している。

ア．参加学生

看護第一学科1年生　84名

イ．参加対象者

松枝自治会敬老会の方

当日参加者　72名

ウ．開催日時および場所

2018年9月28日（金）13：00～16：50

当校　講堂

エ．内容

・式典

・看護学生からの「お祝いショー」

・ふれあい会（看護学生とのお話し会）

（9）手作りおもちゃの遊びの会

小児看護学Ⅲの授業の一環として、学生の作成した手作りおもちゃを使用して、地域に住む小児や家族と関わり、遊びの意義やコミュニケーション技術、対象理解を深めるために実施している。

ア．参加学生

看護第一学科2年生　88名

イ．参加対象者

厚木市内の保育園、幼稚園の園児、近隣に在住の乳幼児および保護者の方

当日参加者　108名

ウ．開催日時および場所

2018年11月1日（木）9：30～11：30

当校　講堂

エ．内容

・学生が作成した手作りおもちゃの展示とおもちゃを活用した遊びの実際

・地域で生活する小児や保護者の方と関わり、安全で楽しい遊びの場の提供

（１０）推薦入学生準備説明会

ア．参加対象

看護第一学科の推薦入学生および保護者

イ．参加者数

推薦入学予定者　60名　　保護者　45名

ウ．開催日時および場所

2018年11月17日（土）10：00～11：00

当校　4階　第8・9教室

エ．内容

・入学に向けた心構えについて

・入学前の課題学習について

・奨学金等について

（１１）学生のボランティア活動等

ア　ボランティア活動

実施年月日	主催・イベント名	実施内容	実施場所	参加人数	
				一科	二科
2018. 7.26	松枝自治会	地域の学生・生徒による壁画の作成	厚木市新小鮎橋（国道 246 号高架下トンネル）	1年7名 2年5名 3年1名	
2018. 7.15	夏祭り	利用者の模擬店へのご案内．移動介助等	老健さがみ	2年1名	
2018. 8. 1	あいこう祭り 2018	模擬店の準備、片付け	愛光病院	2年9名	
2018. 8. 4	夏祭り	会場設営と撤去 模擬店の手伝い	えびな北高齢者施設	2年1名	
2018. 8.10	放課後デイサービス カリタス翼	知的障害・自閉症の対象者（中学生）と野外活動等の支援	永野健高速自然の家	3年1名	
2018. 8.26	ビッグレスキュー かながわ	大規模災害訓練の負傷者役ボランティア	厚木市立病院	1年6名 2年4名	
2018.12. 1	第 20 回 神奈川看護学会	受付・案内・誘導等の会場ボランティア	パシフィコ横浜 アネックスホール	1年2名	
2019. 3. 2 2019. 3. 3	愛川ふれあいの村ユニバーサルキャンプ	障害児の活動補助と生活支援	神奈川県立 愛川ふれあいの村	2年4名	
2019. 3. 9	炊き出し 特定非営利活動法人 TENOHASI	炊き出し・調理・運搬	東池袋中央公園	2年1名	

イ　学生のインターンシップへの参加状況

施設名	参加人数	
	一科	二科
愛光病院	1年生　1名 2年生　8名	
厚木市立病院	1年生　1名 2年生　4名	
伊勢原協同病院	1年生　1名 2年生　19名	3年生　1名
海老名総合病院	1年生　8名	3年生　1名
小田原市立病院	2年生　1名	
神奈川県立こども医療センター	2年生　1名	
神奈川県立精神医療センター	2年生　1名	
神奈川リハビリテーション病院	1年生　1名 2年生 16名	
桜ヶ丘中央病院	2年生　1名	3年生　1名

施設名	参加人数	
	一科	二科
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	2年生　3名	
鶴巻温泉病院		2年生　2名 3年生　2名
東名厚木病院	1年生 11名 2年生　5名	
秦野赤十字病院	1年生　4名 2年生　1名	2年生　1名 3年生　1名
平塚市民病院		2年生　2名
大和市立病院	1年生　1名 2年生　3名	2年生　1名 3年生　1名
看護小規模多機能型居宅介護サービス つるかめ庵	2年生　1名	
SMC 訪問看護ステーションさなだ	2年生　1名	
訪問看護ステーションふたばらいふ	2年生　1名	
訪問看護ステーションさつき	2年生　1名	
こまち訪問看護ステーション	2年生　1名	
鶴巻訪問看護ステーションいせはら	2年生　1名	
ハーモニーケア訪問看護ステーション	2年生　1名	
訪問看護リハビリステーション 厚木サテライト	2年生　1名	

11. 図書活動状況

(1) 蔵書冊数

図書

分類	冊数	構成比
哲学・心理学	900	4.8%
社会科学	1,582	8.5%
福祉	383	
教育	169	
自然科学及び技術・家政学	10,439	56.2%
医学	3,795	
看護学	6,554	
文学	1,945	10.5%
上記以外の一般書（歴史・語学等）	1,831	9.9%
製本雑誌	1,867	10.1%
図書計	18,564	100.0%

視聴覚資料

分類	点数	構成比
福祉	12	1.2%
医学	255	24.9%
看護	663	65.6%
その他	93	9.1%
視聴覚資料　計	1023	100.0%

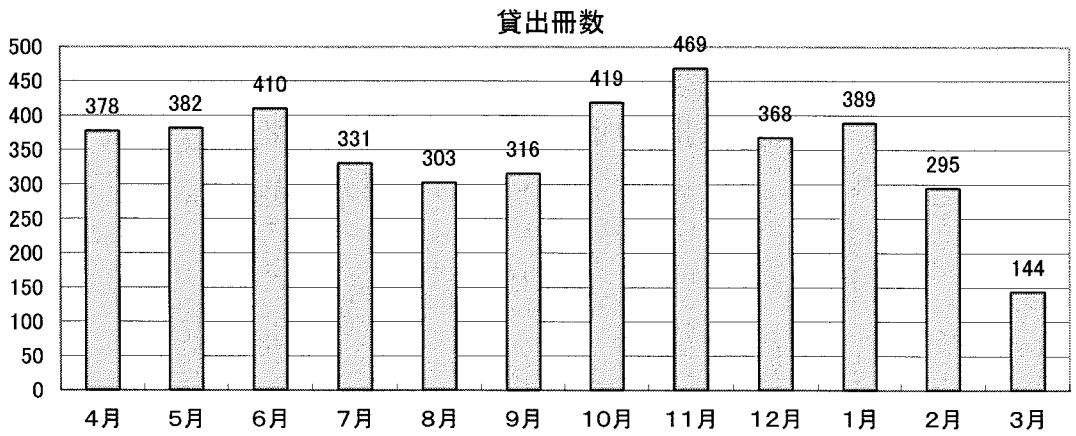
(2) 新規受け入れ状況

図書

分類	冊数	構成比
哲学・心理学	3	0.5%
社会科学	24	4.3%
自然科学及び技術・家政学	401	71.6%
看護学	338	60.4%
文学	11	2.0%
上記以外の一般書（歴史・語学等）	377	67.3%
製本雑誌	49	8.8%
図書計	560	100.0%

(4) レファレンスサービス

相互貸借（複写）			外部図書館紹介
依頼		受付	
学内	神奈ﾘﾊ		
88	14	0	1

(3) 貸出状況（利用実績）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
378	382	410	331	303	316	419	469	368	389	295	144